

日本産有剣膜翅類検索表

4. セイボウ科 (Chrysididae) の検索

寺山 守¹⁾・田埜 正²⁾・室田 忠男³⁾

(1) 〒339-0054 さいたま市岩槻区仲町2-12-29・(2) 〒918-8057 福井市加茂河原1-5-5・

(3) 〒916-0027 鯖江市桜町1-4-5)

TERAYAMA, Mamoru, Tadashi TANO and Tadao MUROTA : Guide to the Japanese Aculeate wasps.

4. Family Chrysididae

セイボウ科 Chrysididae は、体長2mmから20mm程度の大きさの寄生性あるいは労働寄生性のハチで、世界に4亜科82属約2,500種が記載されている。日本からは4亜科16属49種が記録されており、腹部が3節からなりドロバチ等に寄生するセイボウ亜科は10属37種が、5節からなりハバチ類のサナギに寄生するセイボウモドキ亜科は1属6種が、さらに腹部が4あるいは5節からなり、ナナフシの卵に寄生するナナフシバチ亜科とカブトバチ亜科が、それぞれ4属5種と1属1種知られている。

Kimsey & Bohart (1990) による亜科間の系統は (セイボウモドキ亜科 + (セイボウ亜科 + (カブトバチ亜科 + ナナフシバチ亜科))) が提示されており、セイボウモドキ亜科が他の3群と系統図の基幹部で分岐している。

本検索表中の各種の分布は国内に限定したもので、下記の記号で生息地域を示した。

北：北海道，本：本州，四：四国，九：九州，佐：佐渡島，対：対馬，種：種子島，屋：屋久島，琉：琉球列島（奄：トカラ・奄美諸島，沖：沖縄諸島，宮：宮古諸島，八：八重山諸島），伊：伊豆諸島，小：小笠原群島。

亜科の検索

- 1a. 頭頂は後方へ著しく突出する。
 1b. 後頬部に発達した薄板がある。
 1c. 肩板は著しく大きい。
 カブトバチ亜科 Loboscelidiinae
- 1aa. 頭頂は著しく後方へ突出することはない。
 1bb. 後頬部に薄板はない。
 1cc. 肩板は通常の大きさ。
 2
- 2a. 腹部は3節からなる。
 2b. 腹節背板が腹部の下方まで広がっているため側方からは腹板は見えない。
 2c. 触角挿入孔の周縁部はふくらむ。
 セイボウ亜科 Chrysidinae

- 2aa. 腹部はオスで5節, メスで4節からなる.
- 2bb. 腹節腹板は側方から見て認められる.
- 2cc. 触角挿入孔の周縁部は平らか凹み, ふくらまない.
..... ナナフシバチ亜科 Amiseginae

- 2aaa. 腹部は5節からなる.
- 2bbb. 腹節腹板は側方から見て認められる.
- 2ccc. 触角挿入孔の周縁部はふくらむ.
..... セイボウモドキ亜科 Cleptinae

カブトバチ亜科 Loboscelidiinae

体長3mm以下の小形のハチ。頭頂は後方へ著しく突出し、後頬部に発達した薄板があることと、肩板が著しく発達していることで他亜科と区別される。東洋区とオーストラリア区から2属31種が記載されており、ナナフシの卵に寄生することが知られている。

日本からはカブトバチ *Loboscelidia maai* 1種が琉球列島の西表島から記録されている。

カブトバチ *Loboscelidia maai* (Lin, 1964)

体長2-2.5mm。体色は赤褐色で、頭部後頬部の他、触角柄節、腿節、けい節にも薄板をもつ。
分布：西表島；台湾。

ナナフシバチ亜科 (ナナフシセイボウ亜科) Amiseginae

世界に32属約110種が知られており、熱帯や亜熱帯を中心に分布する。これまでに生態の知られているすべての種がナナフシの卵に寄生する。セイボウ亜科とは異なり、体全体に金属光沢を持たないものが多い。日本からは4属5種が記録されている。

ナナフシバチ亜科の種の検索

- 1a. 後頭隆起縁はない.
- 1b. 触角鞭節は第1節を除き長く、各節の長さは幅の3倍以上.
..... オキナワナナフシバチ *Okinawasega eguchii* Terayama, 1999 沖, 八
- 1aa. 発達した後頭隆起縁をもつ.
- 1bb. 触角鞭節は第1節を除き短く、各節の長さは幅の2倍以下.
..... 2
- 2a. 頭頂に点刻を欠く平滑な縦の帯がある.
- 2b. 翅は発達し、縁紋は長く大きい.
..... ヤマトナナフシバチ *Cladobethylus japonicus* Kimsey, 1986 本
- 2aa. 頭頂に平滑な縦の帯はない.
- 2bb. 縁紋は小さいかあるいは翅そのものが退化している.
..... 3

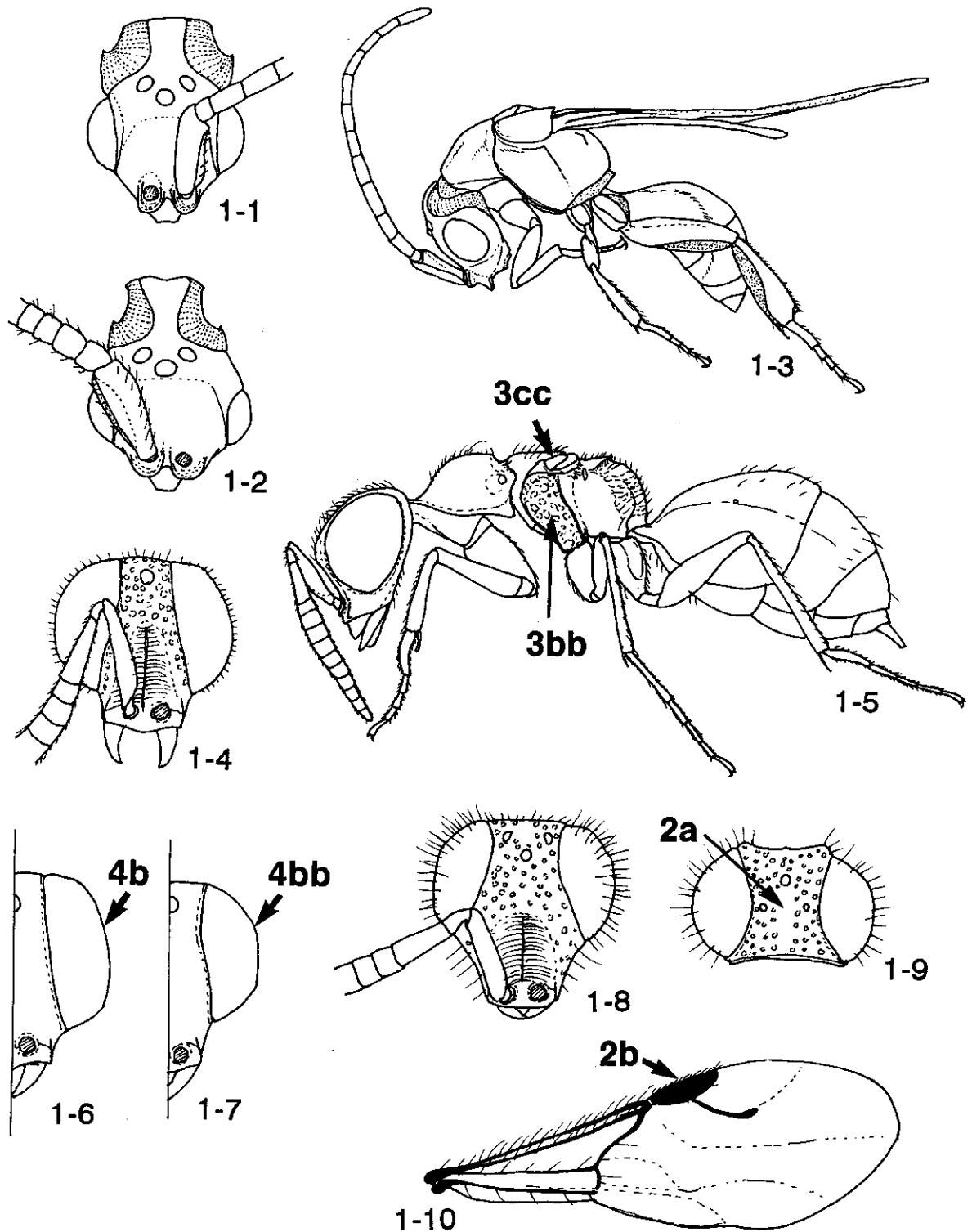


図1. カブトバチ亜科 Loboscelidiinae およびナナフシバチ亜科 Amiseginae の種検索.

1-1~1-3, カブトバチ *Loboscelidia maai* : 1-1, 頭部, 正面, オス; 1-2, 同, メス; 1-3, 体, 側面, オス.

1-4~1-6, ナナフシバチ *Nipponosega yamanei* ; 1-4, 1-6, 頭部, 正面; 1-5, 全形. 1-7, カントウナナフシバチ *Nipponosega kantoensis*, 頭部, 正面.

1-8~1-10, ヤマトナナフシバチ *Cladobethylus japonicus* ; 1-8, 頭部, 正面; 1-9, 頭部, 背面; 1-10, 前翅.

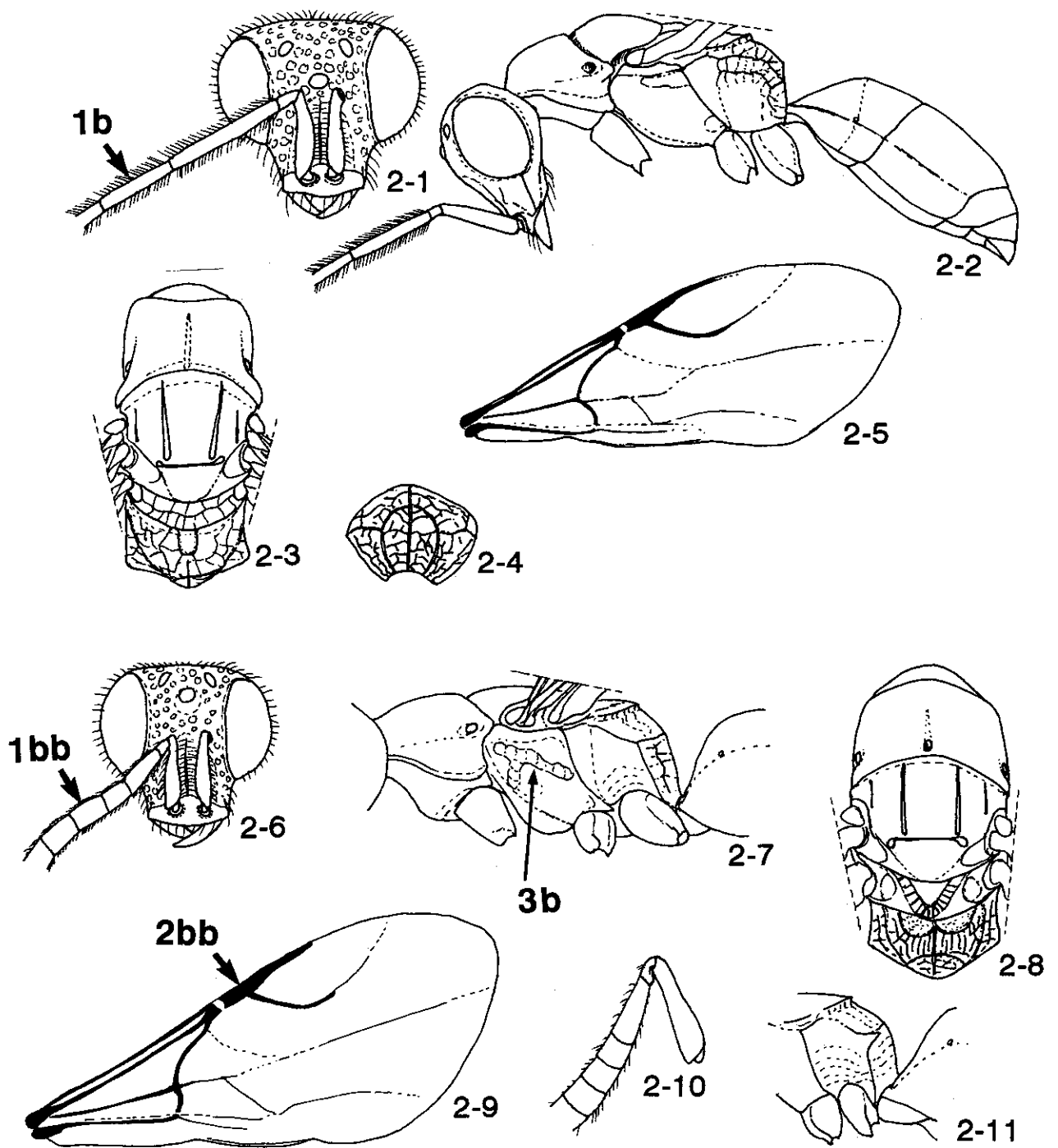


図2. ナナフシバチ亜科 Amiseginae の種検索.

2-1~2-5, オキナワナナフシバチ *Okinawasega eguchii*; 2-1, 頭部, 正面; 2-2, 体, 側面; 2-3, 胸部, 背面; 2-4, 前伸腹節, 後面; 2-5, 前翅.

2-6~2-11, トゲナナフシバチ *Calosega kamiteta*; 2-6, 頭部, 正面; 2-7, 胸部, 側面; 2-8, 胸部, 背面; 2-9, 前翅; 2-10, 触角第1-6節; 2-11, 前伸腹節, 側面.

- 3a. 頬に1本の条をもつ。
 3b. 中胸側板に凹部をもつ。
 3c. オス、メスともに発達した翅をもつ。
 3d. 体は黒色。
 トゲナナフシバチ *Calosega kamiteta* Terayama, 1999 八
- 3aa. 頬に条はない。
 3bb. 中胸側板に凹部はない。
 3cc. メスの翅は短く退化している。
 3dd. 胸部は褐色から赤褐色、頭部と腹部は黒色から黒褐色。
 4
- 4a. 単眼の配列は鋭角三角形をなす。
 4b. 正面から見て複眼の外縁の中央付近はより直線状で、弱く弧をえがく。
 ナナフシバチ *Nipponosega yamanei* Kurzenko & Lelej, 1994 本, 屋
- 4aa. 単眼の配列はほぼ正三角形。
 4bb. 正面から見て複眼の外縁の中央付近は、より強く弧をえがく。
 カントウナナフシバチ *Nipponosega kantoensis* Nagase, 1995 本

種の概説

ヤマトナナフシバチ *Cladobethylus japonicus* Kimsey, 1986 [図4-6, 4-7]

体長3-3.5mm. 体色は黒色で、頭部には弱い藍青色の金属光沢がある。触角柄節は褐色で触角第2節から第5節までは乳白色、第6節以降は褐色となる。前翅の縁紋は大きく長い。頭部に後頭隆起縁をもち、頭頂部に点刻を欠き平滑な縦走帯がある。

分布：本州。

ナナフシバチ (ナナフシセイボウ) *Nipponosega yamanei* Kurzenko & Lelej, 1994 [図4-2]

体長4mm程度。頭部は黒色、胸部は褐色から赤褐色、腹部は黒色、脚は黄色。後胸の長さよりも短い非常に小さい翅をもつ。頭部の長さや複眼の配置は多少とも個体変異を示す。

屋久島産の個体の腹部はやや薄く黒褐色。オスは未知。

分布：本州，屋久島。

カントウナナフシバチ (カントウナナフシセイボウ) *Nipponosega kantoensis* Nagase, 1995 [図4-1]

体長4mm. ナナフシバチに色彩を含めて類似するが、頭部の形状に相違が見られ、単眼の配列はほぼ正三角形 (ナナフシバチでは鋭角三角形) であることと、複眼の外縁は正面から見てより強く弧をえがく (ナナフシバチではより直線状で、弱く弧をえがく) ことで区別される。

分布：本州。

オキナワナナフシバチ *Okinawasega eguchii* Terayama, 1999 [図4-3]

体長3.5mm. 頭部は黒色. 前胸, 中胸側板は明赤褐色で中胸背板は黒色. 後胸は暗赤褐色で前伸腹節は黒色. 腹部第1節は黄色で第2節以降は黒色. 脚は黄色. 胸部は暗褐色になる個体も見られる.
分布: 八重山 (石垣島, 西表島).

トゲナフシバチ *Calosega kamiteta* Terayama, 1999 [図4-4, 4-5]

体長4mm程度. 体色は黒色. 大あごは暗褐色. 脚は黄色. オスの触角は全体が黒色であるが, メスでは触角裏面は褐色で, 触角第2節から第4節までが乳白色である.

琉球列島の石垣島から記載された種であるが, その後, 奄美大島や沖縄島からも記録され, さらに本州 (愛知) 産の標本 (♀) も検している.

分布: 本州 (愛知), 琉球 (奄美大島, 沖縄島, 石垣島).

セイボウモドキ亜科 *Cleptinae*

日本からはセイボウモドキ属 *Cleptes* に含まれる7種が記録されているが, 朝鮮半島から記載されたガロアセイボウモドキ *Cleptes galloisi* Uchida, 1926 は正体不明で (Tsuneki, 1959), 基準標本も所在が不明の状態にある. Kimsey & Bohart (1990) は本種の分布に日本を挙げているが, 著者らは本種の日本からの確実な分布記録を知らず, ここでの検索表では本種を除いた6種を取り扱った. 本亜科に含まれる種は, 雌雄で色彩の異なるものも多く, 同定には留意が必要である. ヒウラセイボウモドキ *Cleptes venustus* はオスのみが知られ, 一方, ミシマセイボウモドキ *Cleptes mishimaensis* はメスのみが知られている. Kimsey & Bohart (1990) によると, 日本の6種の内, *japonicus* は *semiauratus* 種群に所属し, 残りの5種は *satoi* 種群に位置付けられる.

生態的な知見は非常に少なく, フジセイボウモドキ *Cleptes fudzi* がマツノミドリハバチ *Nesodiprion japonica* のサナギに寄生することが報じられている.

セイボウモドキ亜科の種の検索

- 1a. 腹部は4節の可視腹節からなる.
- 1b. 触角は短く, 第4節から第12節までは長さが幅とほぼ同じか小さい.
..... (メス) 2
- 1aa. 腹部は5節の可視腹節からなる.
- 1bb. 触角は長く, 第4節から12節までは長さが幅よりも大きい.
..... (オス) 6

[メ ス]

- 2a. 単眼は頭部後縁から大きく離れた場所にあり, 背方から見て単眼から頭部後縁までの長さは, 後方単眼間の長さの約2倍ある (頭部と胸部は金属光沢に富む青紫色, 腹部側面, 前脚腿節, 後脚基節と腿節は緑色を帯びる).
..... アタマセイボウモドキ *Cleptes crassiceps* Tsuneki, 1959 北, 本, 四

- 2aa. 単眼はより頭部後縁側にあり、背方から見て単眼から頭部後縁までの長さは、後方単眼間の長さの1.5倍以下。
 3
- 3a. 正面から見て頭部の頬の外縁は下方に向けて急速に狭まる。
 3b. 中胸側板はまばらに点刻される。
 4
- 3aa. 正面から見て頭部の頬の外縁はほぼ平行となる。
 3bb. 中胸側板は密に点刻されるか小条でおおわれる。
 5
- 4a. 前胸背板中央に縦走する溝がある。
 4b. 頭部、胸部は銅黒色で、青から紫青色の金属光沢がある。腹部の側面と付節を除いた脚も金属光沢の紫青色。
 フジセイボウモドキ *Cleptes fudzi* Tsuneki, 1959 本
- 4aa. 前胸背板中央に縦走する溝はない。
 4bb. 頭部、胸部は紫青色だが腹部は黒色。
 ミシマセイボウモドキ *Cleptes mishimaensis* Tsuneki, 1986 北, 本
- 5a. 前伸腹節刺はやや長く、刺状で後側方に突出する (図3-20)。
 5b. 前胸背板は密に点刻され、点刻と点刻が融合し強い縦の皺刻となり、前縁は背方から見て強い弧をえがく。
 5c. 頭部、胸部は黒色で金属光沢を有する部分はなく、腹部は褐色。
 サトウセイボウモドキ *Cleptes satoi* Tosawa, 1940 本, 四
- 5aa. 前伸腹節刺は短く、前伸腹節後縁から前伸腹節刺までの線はほぼ直線 (図3-19)。
 5bb. 前胸背板の点刻は疎で、前縁は背方から見て緩やかな弧をえがく。
 5cc. 頭部と胸部は黒色で、部分的に青色の金属光沢がある。腹部は褐色。
 ヤマトセイボウモドキ *Cleptes japonicus* Tosawa, 1940 本

(オ ス)

- 6a. 単眼は頭部後縁から離れた場所にあり、背方から見て単眼から頭部後縁までの長さは、後方単眼間の長さの約1.5倍ある (頭部と胸部は金属光沢に富む紫から青紫色、腹部は黒色で側面に青色の金属光沢が見られる)。
 アタマセイボウモドキ *Cleptes crassiceps* Tsuneki, 1959 北, 本, 四
- 6aa. 単眼はより頭部後縁側にあり、背方から見て単眼から頭部後縁までの長さは、後方単眼間の長さとはほぼ同じ。
 7
- 7c. 頭部と胸部は主に銅緑色で金属光沢をもち、脚脛節と付節は赤黄色から赤褐色。
 サトウセイボウモドキ *Cleptes satoi* Tosawa, 1940 本, 四
- 7cc. 頭部と胸部は青色から藍青色で、脚脛節と付節は褐色から暗褐色。
 8
- 8a. 後盾板中央の基部に明瞭な孔がある。

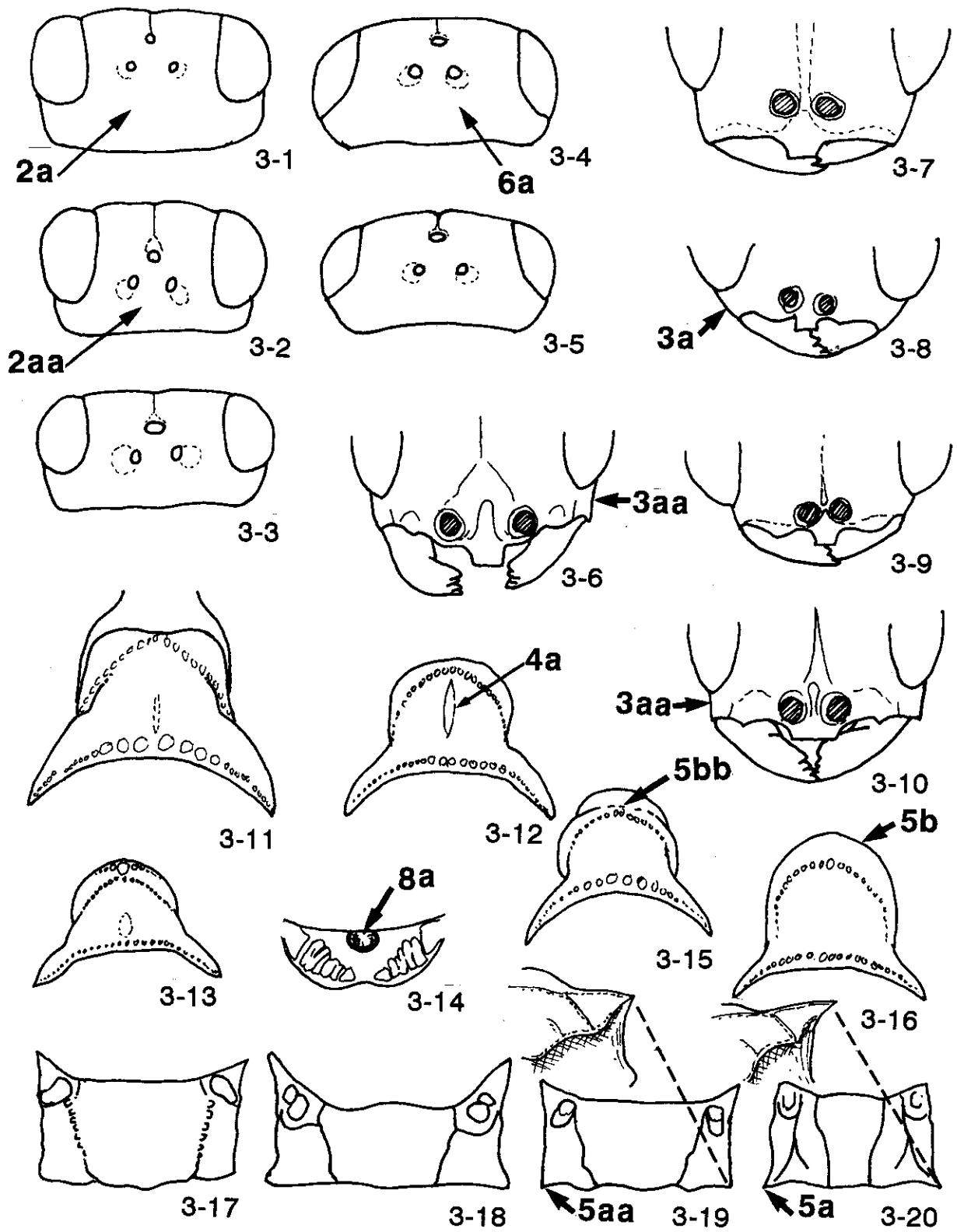


図3. セイボウモドキ亜科 Cleptinae の種検索.

3-1, 3-4, 3-7, 3-11, 3-17, アタマセイボウモドキ *Cleptes crassiceps* (3-1, 3-7, 3-11, 3-17, メス; 3-4, オス); 3-2, 3-8, 3-12, 3-18, フジセイボウモドキ *Cleptes fudzi*; 3-3, 3-6, 3-15, 3-19, ヤマトセイボウモドキ *Cleptes japonicus*; 3-5, 3-10, 3-16, 3-20, サトウセイボウモドキ *Cleptes satoi*; 3-9, 3-13, 3-14, ヒウラセイボウモドキ *Cleptes venustus* (オス; Tsuneki, 1966をもとに描く).

- 8b. 頭部の中央単眼から頭盾にかけて明瞭な溝がある.
 ヒウラセイボウモドキ *Cleptes venustus* Tsuneki, 1966 本
- 8aa. 後盾板中央の基部に孔はない.
- 8bb. 頭部の中央単眼から頭盾にかけて明瞭な溝は見られない.
 9
- 9a. 前胸背板中央に縦走する溝がある.
- 9b. 腹部は紫青色で、各背板の後縁付近は黒色.
 フジセイボウモドキ *Cleptes fudzi* Tsuneki, 1959 本
- 9aa. 前胸背板中央に縦走する溝はない.
- 9bb. 腹部は黒色で基部付近は褐色.
 ヤマトセイボウモドキ *Cleptes japonicus* Tosawa, 1940 本

種の概説

アタマセイボウモドキ *Cleptes crassiceps* Tsuneki, 1959 [図4-8~4-10]

体長5-8mm. 頭部と胸部は金属光沢に富む紫青色、腹部は黒色で側面に青色の金属光沢が見られる。単眼が頭部後縁から離れた場所にあり、背方から見て単眼から頭部後縁までの長さは、後方単眼間の長さのメスで約2倍、オスで約1.5倍ある。

分布：北海道，本州，四国。

フジセイボウモドキ *Cleptes fudzi* Tsuneki, 1959 [図4-18, 4-19]

体長7-9mm. 頭部，胸部は銅黒色で，青から紫青色の金属光沢がある。腹部は紫青色で，側面は金属光沢の青色。メスの付節を除いた脚は金属光沢の青色，オスでは脚脛節と付節は褐色から暗褐色。正面から見て頭部の頬の外縁は下方に向けて急速に狭まる。前胸背板中央に縦走する溝がある。

マツノミドリハバチ *Nesodiprion japonica* の繭から本種が羽化することが報じられている。サナギに外部捕食寄生するものと思われ，繭を大あごでかじり小孔を空け，そこに産卵管を挿入し中の寄主を麻痺させた後に産卵を行う。

分布：本州。

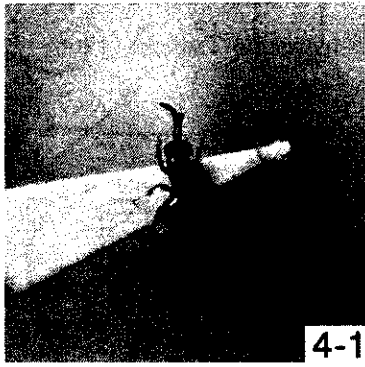
ヤマトセイボウモドキ *Cleptes japonicus* Tosawa, 1940 [図4-14~4-17]

体長5-7mm. メスでは頭部と胸部が黒色で，部分的に青色の金属光沢があり，腹部は褐色となる。オスでは頭部と胸部は青色から藍青色で，脚脛節と付節は褐色から暗褐色。正面から見て頭部の頬の外縁はほぼ平行となる。

分布：本州。

ミシマセイボウモドキ *Cleptes mishimaensis* Tsuneki, 1986

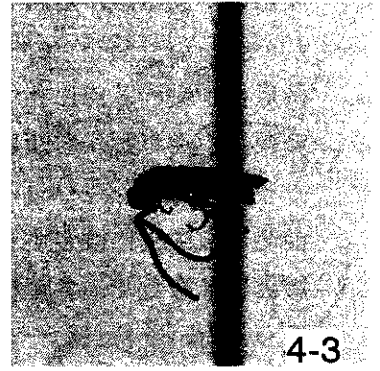
体長6.5mm. フジセイボウモドキに似るが，前胸背板中央に縦走する溝はないことと，頭部，胸部は紫青色だが腹部は黒色であることで区別される。



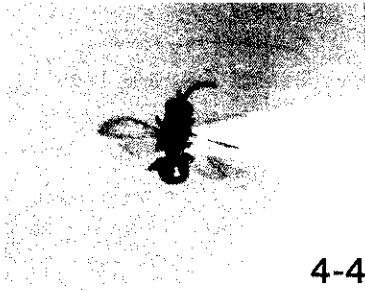
4-1



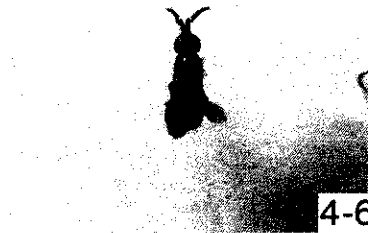
4-2



4-3



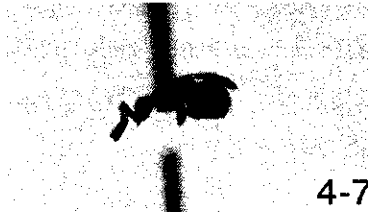
4-4



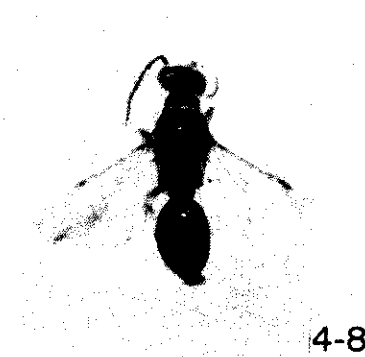
4-6



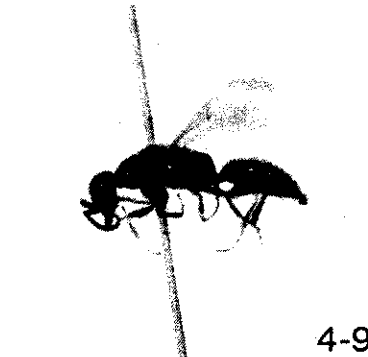
4-5



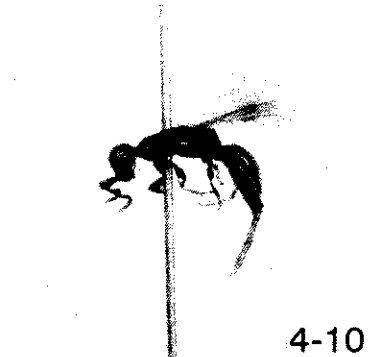
4-7



4-8



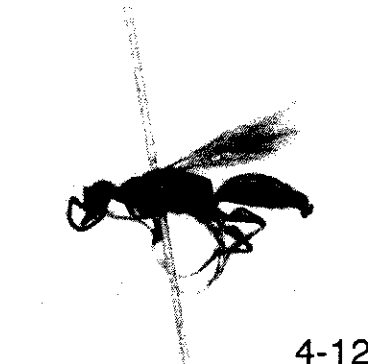
4-9



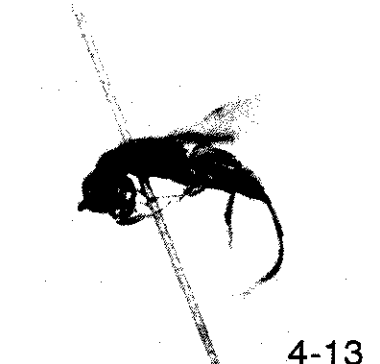
4-10



4-11



4-12



4-13

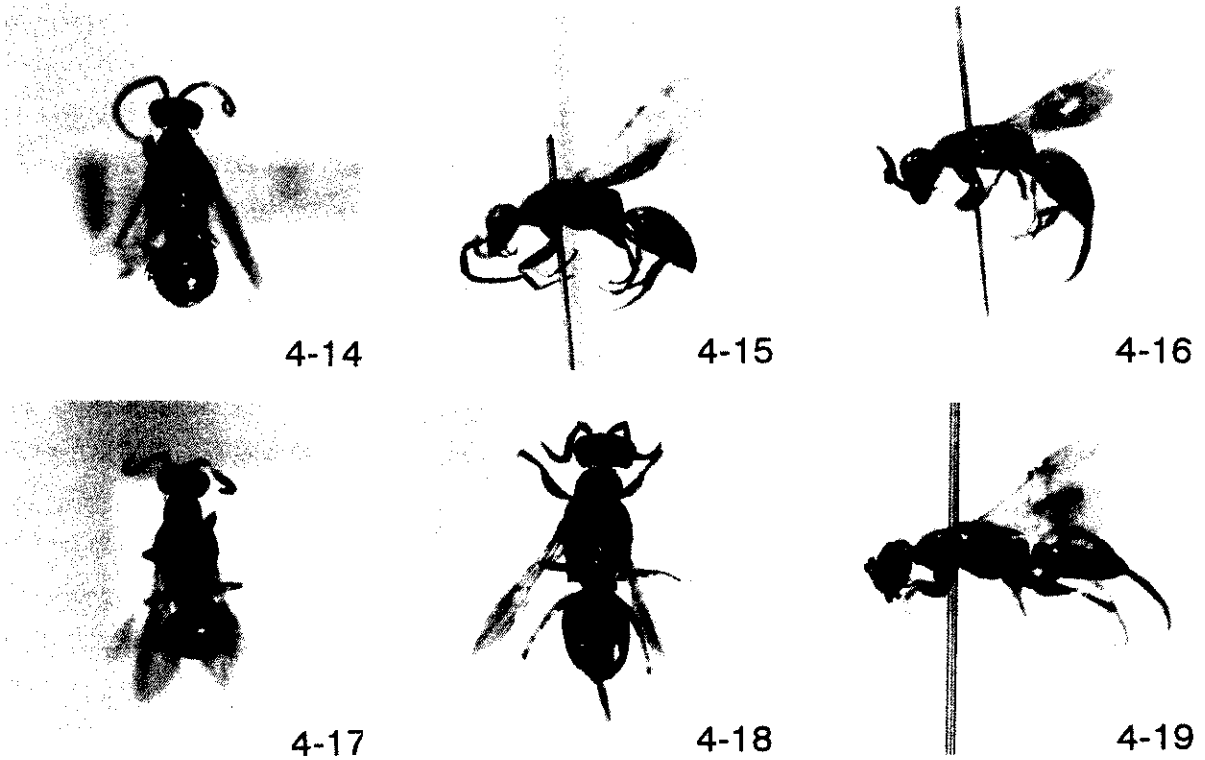


図4. ナナフシバチ亜科 Amiseginae およびセイボウモドキ亜科 Cleptinae の種.

4-1, カントウナナフシバチ *Nipponosega kantoensis*, メス; 4-2, ナナフシバチ *Nipponosega yamanei*, メス; 4-3, オキナワナナフシバチ *Okinawasega eguchii*, オス; 4-4, 4-5, トゲナナフシバチ *Calosega kamiteta*, メス; 4-6, 4-7, ヤマトナナフシバチ *Cladobethylus japonicus*, メス.

4-8~4-10, アタマセイボウモドキ *Cleptes crassiceps* (4-8, 4-9, オス; 4-10, メス); 4-11~4-13, サトウセイボウモドキ *Cleptes satoi* (4-11, 4-12, オス; 4-13, メス); 4-14~4-17, ヤマトセイボウモドキ *Cleptes japonicus* (4-14, 4-15, オス; 4-16, 4-17; メス); 4-18, 4-19, フジセイボウモドキ *Cleptes fudzi*, メス.

本州の原名亜種 *C. m. mishimaensis* Tsuneki, 1986 に対して北海道のものは亜種 *C. m. hokkaidoi* Móczár, 2000とされるが、詳細な比較検討を必要とする。オスは未知。

分布：北海道，本州。

サトウセイボウモドキ *Cleptes satoi* Tosawa, 1940 [図4-11~4-13]

体長5-7mm. メスでは頭部，胸部が黒色で金属光沢を有する部分はなく，腹部は褐色となる。オスでは頭部と胸部は主に銅緑色で金属光沢をもち，脚脛節と付節は赤黄色から赤褐色。前伸腹節刺はやや長く，刺状で後側方に突出する。

分布：本州，四国。

ヒウラセイボウモドキ *Cleptes venustus* Tsuneki, 1966

体長4mm. オスの頭部，胸部は金属光沢に富む青色で，大あごの基部や触角柄節，後頭部等は緑色味が強い。腹部はほぼ黒色。頭部の中央単眼から頭盾にかけて明瞭な溝があり，後盾板中央の基部に明瞭な孔がある。メスは未知。

分布：本州。

セイボウ亜科 Chrysidinae

セイボウ科の中心をなす亜科で世界に4族47属約2,200種が分布する。体表の彫刻は粗く、かつ金属光沢に富む美麗種が多いことで知られている。腹部が3節からなり、背板が発達し腹板がほとんど見えない状態にあり、他亜科とは容易に区別される。Kimsey & Bohart (1990) では本亜科の族間の系統として、(Elampini + (Allocoeliini + (Chrysidini + Parnopini))) が提出されている。

日本産として今日10属37種が認められる。従来は、異爪亜科 Heteronichinae と単爪亜科 Holonychinae に区分され、異爪亜科にツヤセイボウ族、マルセイボウ族の2族が日本から認められていたが、今日の分類体系ではセイボウ族 Chrysidini とツヤセイボウ族 Elampini の2族に区分され、それぞれに5属21種と5属16種が所属している。

本亜科の種の大部分はドロバチ類やアナバチ類の巣に産卵し、巢内で育った寄主の幼虫か前蛹を外部から捕食して行く外部捕食寄生者 (ectoparasite) か、巢内に蓄えた獲物を横取りして餌とする労働寄生者 (cleptoparasite) である。ハナバチ類に寄生するものは、明らかに外部捕食寄生であり労働寄生的側面は見られない。日本産のセイボウ族 (Chrysidini) の種は、主にドロバチ類の巣に寄生し、一部の種でジガバチ類やハキリバチ類の巣に寄生し、さらに、イラガセイボウでは鱗翅目のイラガの前蛹に寄生する。ミツバセイボウではジガバチモドキ類に寄生する。ツヤセイボウ族 Elampini の種は主にアリマキバチ類やマエダテバチ類、イスカバチ類の巣に寄生し、マルセイボウ属 *Hydychrum* ではツチスガリ属の巣に寄生する。

本亜科での形態上の性差は小さく、特にツヤセイボウ族では交尾器を確認しないと判断できない場合がある。一方、セイボウ族では腹部第3背板の形状で大体判定が可能である。つまり、メスでは側方から見て中央部がへこみ、オスでは全体が丸味をおび、中央はへこまないか、わずかにへこむ程度である。幼虫の形態についての記載例は少なく、世界で20種ほどの成熟幼虫での記載が見られるにすぎない (Tormos et al., 1996)。日本ではリンネセイボウの詳細な記載 (山根, 1976) がある。

セイボウ亜科の種の検索

- 1a. 脚の爪は単一で付属歯をもたない。
- 1b. 腹部は背方から見て円筒形。
..... セイボウ族 Chrysidini 2
- 1aa. 脚の爪に側歯がある。
- 1bb. 腹部は背方から見て円形。
..... ツヤセイボウ族 Elampini 17

(セイボウ族 Chrysidini)

- 2a. 頭部は著しく細長く、前方に伸張する。
- 2b. 背方から見て胸部は前方が狭く前伸腹節付近で幅が最大となる。腹部は後方に向かうにつれて幅が狭まる。
..... オオセイボウ *Stilbum cyanurum* (Förster, 1771) 本, 四, 九, 琉
- 2aa. 頭部は著しく前方に伸張しない。

- 2bb. 背方から見て胸部，腹部ともに側縁がほぼ平行となる.
..... 3
- 3a. 腹部末端部に歯状突起をもたない.
..... 4
- 3aa. 腹部末端部に3歯をもつ.
..... 6
- 3aaa. 腹部末端部に4歯をもつ.
..... 9
- 3aaaa. 腹部末端部に5歯をもつ.
..... 14
- 3aaaaa. 腹部末端部に6歯をもつ (最外縁のものは，突出が弱く角をなすだけの場合がある).
..... 15
- 4a. 尾端は丸い.
..... 5
- 4aa. 尾端は弱い波状の形態を示す.
..... ナミハセイボウ *Chrysis japonica* Cameron, 1887 北，本，四，九
- 5a. 頭部，胸部は青緑色，腹部は明るい紅色.
..... イワタセイボウ *Chrysurus hirsuta* (Gerstaecker, 1869) 本
- 5aa. 頭部，胸部は青緑色，腹部は青緑色で第1節，第2節の前部側方に金色の斑をもつ.
..... オガサワラセイボウ *Chrysis boninensis* Tsuneki, 1984 小 (父島)
- 6a. 尾端の3歯は明瞭に歯状に突出する.
- 6b. 尾端の歯間の縁部は波状の弧をえがく.
- 6c. 前胸中央に深く刻まれた縦走溝がある.
..... 7
- 6aa. 尾端の両側歯は角ばるだけで，突出は弱い.
- 6bb. 尾端の歯間の縁部は直線状.
- 6cc. 前胸中央の縦走溝は浅い.
..... ミツバセイボウ *Trichrysis cyanea* (Linnaeus, 1758) 北，本
- 7a. 腹部第3背板の側縁は稜縁とならない.
- 7b. 前胸背板両側は明瞭な稜縁とならない.
- 7c. 触角挿入孔の上方に横条をもたない.
..... スダミツバセイボウ *Trichrysis sudai* (Tsuneki, 1977) 本
- 7aa. 腹部第3背板の側縁は稜縁となる.
- 7bb. 前胸背板両側は明瞭な稜縁となる.
- 7cc. 触角挿入孔の上方に横条をもつ.
..... 8
- 8a. 尾端の3歯の先端はより鋭く突出する.
- 8b. 側方から見て，腹部第3節の側縁は波状にゆるやかに曲がる.
..... リュウキュウミツバセイボウ *Trichrysis triacantha* (Mocsáry, 1889) 琉

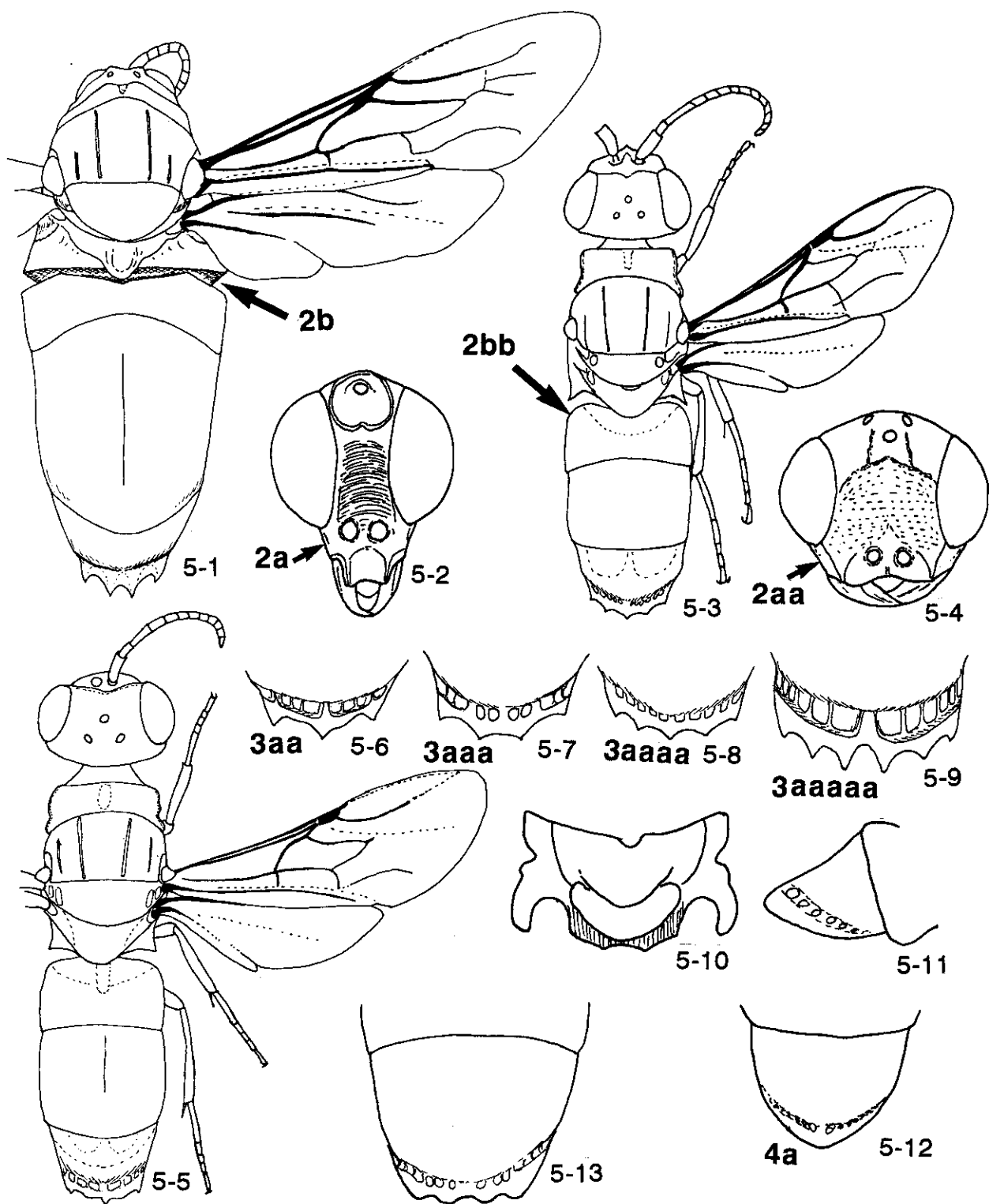


図5. セイボウ亜科 Chrysidinae の種検索 (1).

5-1, 5-2, オオセイボウ *Stilbum cyanurum* ; 5-3, 5-4, 5-8, ミドリセイボウ *Praestochrysis lusca* ;
 5-5, 5-6, リュウキュウミツバセイボウ *Trichrysis triacantha* ; 5-7, クロバネセイボウ *Chrysis angolensis* ;
 5-9, タイワンセイボウ *Chrysis principalis* ; 5-10~5-12, オガサワラセイボウ *Chrysis boninensis* (Tsuneki, 1983をもとに描く ; 5-10, 前伸腹節 ; 5-11, 腹部第3節, 側面 ;
 5-12, 腹部第3節, 背面) ; 5-13, ナミハセイボウ *Chrysis japonica*.

- 8aa. 尾端の3歯の先端の突出はより鈍い.
- 8bb. 側方から見て、腹部第3節の側縁は直線状.
 サオヒメセイボウ *Trichrysis saohime* (Tsuneki, 1950) 本
- 9a. 翅は全体的にくもり、淡黒褐色 (図10-4~10-6).
 クロバネセイボウ *Chrysis angolensis* Radoszkowski, 1881 本, 四, 九, 琉, 小
- 9aa. 翅は主に透明 (外方がくもる場合がある).
 10
- 10a. 体全体が明青緑色 (頭盾, 体の側面, 腹端は緑金色, 腹部各節の後縁は銅金色).
 ノヒラセイボウ *Chrysis nohirai* Tsuneki, 1952 小 (父島)
- 10aa. 体全体が基本色として明青緑色とはならない.
 11
- 11a. 腹部の各節は明瞭な横帯や色斑をもち, 各節が単一色とはならない (第1, 第2節は複数色であるが, 第3節が赤の単一色になる場合がある)
 12
- 11aa. 腹部第1, 2節は赤色から赤黄色で, 腹部第3節は青紫色 (図11-3, 11-5).
 ツマムラサキセイボウ *Chrysis splendidula* Rossi, 1790 北, 本, 四, 九, 沖
- 11aaa. 腹部全体が赤色 (図11-1, 11-6; 第1節の基方はしばしば緑色となる).
 リンネセイボウ *Chrysis ignita* (Linnaeus, 1758) 北, 本, 四, 九, 屋
- 11aaaa. 腹部第1, 2節は紫堇色で (外縁部は赤色), 第3節は赤色 (図12-5, 12-6).
 ツマアカセイボウ *Chrysis rubripyga* Tsuneki, 1950 北, 本, 四, 九
- 12a. 腹部の基本色は赤色であるが, 各節に金緑または金紅色の横帯はなく, 第1節の基部は頭部, 胸部と同色の緑色で, 第2節に紫堇色斑を両側, あるいは基方にもつ (図6-14; 個体によっては第3節の基部にも紫堇色斑をもつ, 図6-13; 図12-3, 12-4).
 コマチセイボウ *Chrysis komachi* Tsuneki, 1954 本
- 12aa. 腹部第1節から3節までの各背板は紫堇色で, 金緑または金紅色の横帯を後縁付近にもつ (オスでは金緑または金紅色の部分が小さくなる).
 13
- 13a. メスの腹端の4歯間の間隔は中央で広く両側で狭い (オスではほぼ等間隔).
- 13b. オスの腹部第2節の後側角は丸みをおびる.
 ホソセイボウ *Chrysis galloisi* (Buysson, 1908) 北, 本, 四, 九
- 13aa. メスの腹端の4歯間は等間隔.
- 13bb. オスの腹部第2節の後側角は角ばる.
 ヨシブエセイボウ *Chrysis syrinx* Tsuneki, 1950 北, 本
- 14a. 前胸背板両側は綾となり張り出す.
- 14b. 体全体が金緑色または青緑色で, 中胸背板中央部は暗紫色となる (図14-2).
 ミドリセイボウ *Praestochrysis lusca* (Fabricius, 1804) 北, 本, 四, 九, 琉, 小
- 14aa. 前胸背板両側は綾とはならず, 丸みを帯びる.
- 14bb. 体は青緑色で, 頭部, 中胸背板中央部, 各腹節基方に紫堇色部がある (図14-1).
 イラガセイボウ *Praestochrysis shanghaiensis* (Smith, 1874) 本, 四, 九

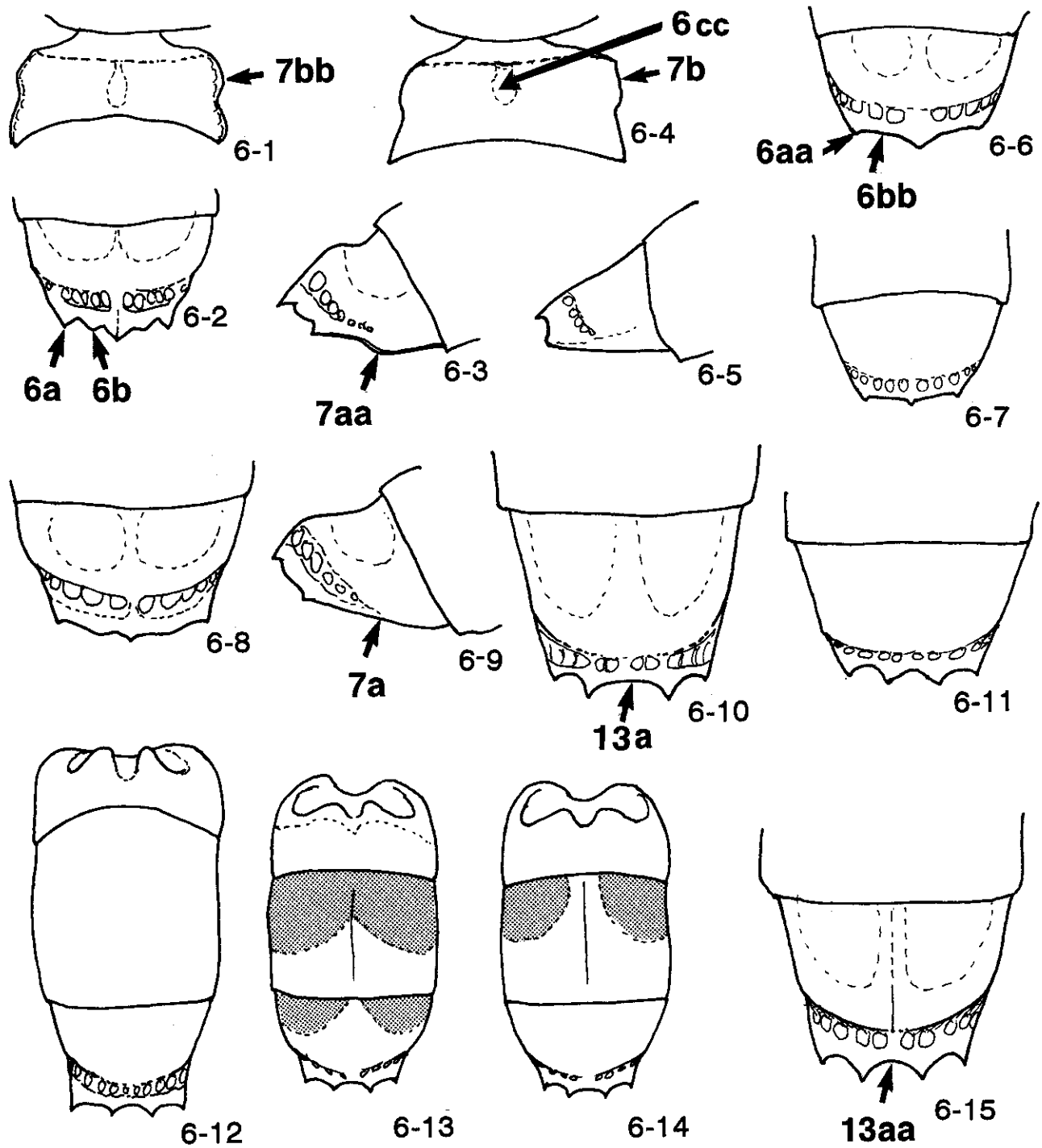


図6. セイボウ亜科 Chrysidinae の種検索 (2).

6-1~6-3, リュウキュウミツバセイボウ *Trichrysis triacantha*; 6-4~6-7, ミツバセイボウ *Trichrysis cyanea* (6-4~6-6, メス; 6-7, オス); 6-8, 6-9, スダミツバセイボウ *Trichrysis sudai* (Tsuneki, 1977をもとに描く); 6-10, 6-11, ホソセイボウ *Chrysis galloisi* (6-10, メス; 6-11, オス); 6-12, ノヒラセイボウ *Chrysis nohirai* (Tsuneki, 1952をもとに描く); 6-13, 6-14, コマチセイボウ *Chrysis komachi*; 6-15, ヨシブエセイボウ *Chrysis syrinx*.

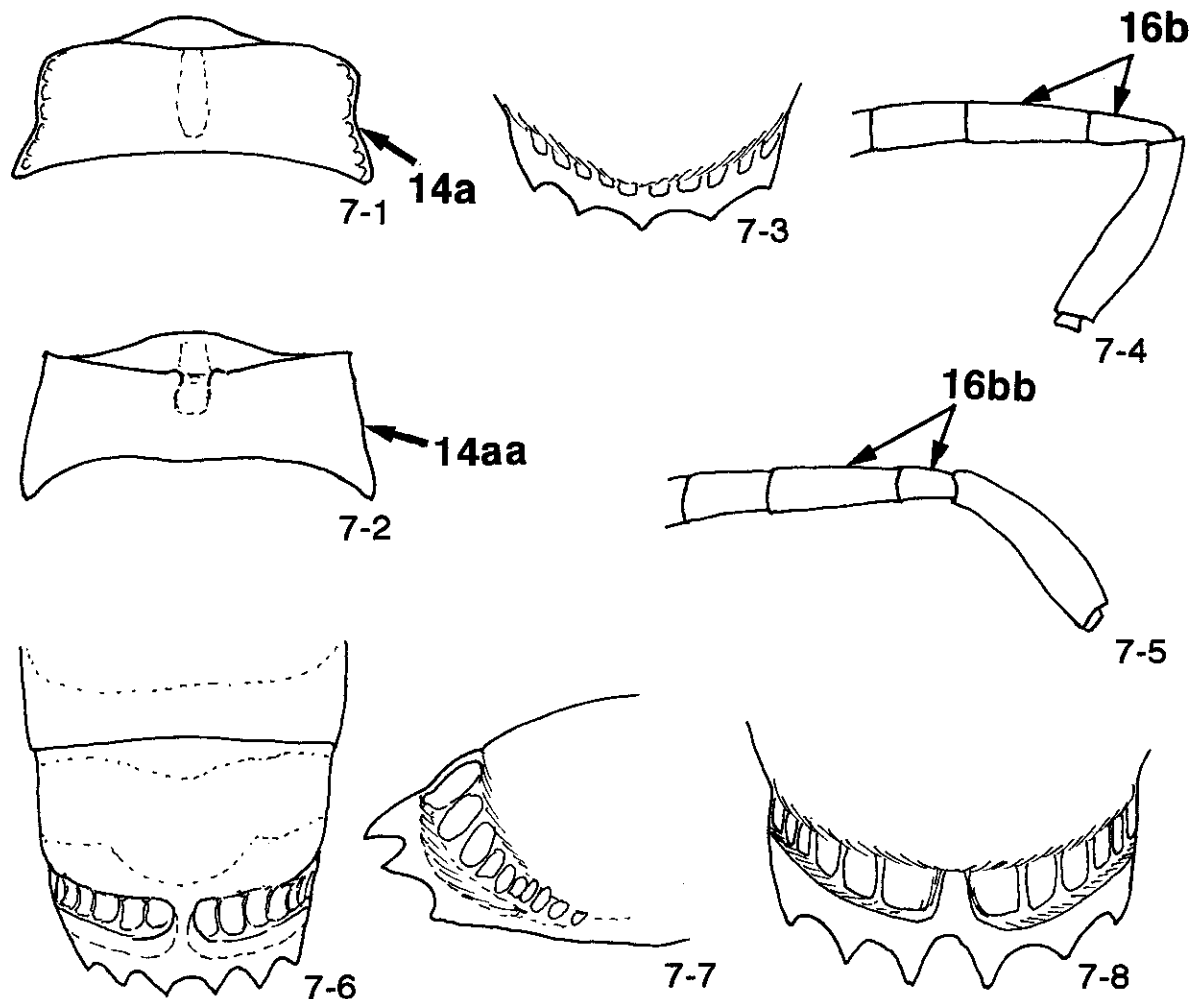


図7. セイボウ亜科 Chrysidinae の種検索 (3).

7-1, 7-3, ミドリセイボウ *Praestochrysis lusca* ; 7-2, イラガセイボウ *Praestochrysis shanghaiensis* ;
 7-4, リュウキュウセイボウ *Chrysis vicaria* ; 7-5, 7-8, タイワンセイボウ *Chrysis principalis* ;
 7-6, 7-7, ムツバセイボウ *Chrysis fasciata*.

- 15a. 体色は緑青色で、腹部に紅金あるいは緑金の横帯はない。
 16
- 15aa. 腹部は紫堇色で、腹部各節の後縁に紅金あるいは緑金の横帯がある (図11-2, 11-4).
 ムツバセイボウ *Chrysis fasciata* Oliver, 1790 北, 本, 四, 九, 佐, 屋
- 16a. 単眼域および中胸背板中央部は堇紫色 (図13-2).
- 16b. 触角第3節は第2節の約1.5倍の長さ。
 リュウキュウセイボウ *Chrysis vicaria* Mocsáry, 1913 琉
- 16aa. 単眼域および中胸背板中央部はそれらの周囲と同じ青緑色から緑色 (図13-3).
- 16bb. 触角第3節は第2節の約2倍の長さ。
 タイワンセイボウ *Chrysis principalis* Smith, 1874 奄

(ツヤセイボウ族 Elampini)

- 17a. 前翅に m-cu 脈 (逆走脈) が弱い認められる.
- 17b. 中脈 (基脈) は中央付近で直線状か弱く弧をえがく.
 18
- 17aa. 前翅の m-cu 脈 (逆走脈) は完全に消失し認められない.
- 17bb. 中脈 (基脈) は中央付近で比較的強く弧をえがく.
 20
- 18a. 前翅の中脈は中央付近で弱く弧をえがく.
- 18b. 腹部第3背板後側縁角に小突起を欠く. (体は青緑色).
 ルイスマルセイボウ *Hedychrum lewisi* (Cameron, 1887) 本, 九
- 18aa. 前翅の中脈はほぼ直線状.
- 18bb. 腹部第3背板後側縁角に小突起がある (個体によって微弱な場合がある).
 19
- 19a. 体は一様に青銅色を帯びた黒色 (図15-1).
 セイドウマルセイボウ *Hedychrum simile* Mocsáry, 1889 本
- 19aa. 頭部は黒紺色から暗紫色で緑色部をもつ; 胸部背面中央線は幅広く黒くないし暗紫色で,
 両側面は緑色; 腹部は緑色から暗緑色 (図15-3).
 オカマルセイボウ *Hedychrum okai* Tsuneki, 1954 北, 本, 四, 九
- 19aaa. 頭部と胸部は金緑色から青緑色で, 腹部は赤色から紫紅色 (図15-2).
 ハラアカマルセイボウ *Hedychrum japonicum* Cameron, 1887 北, 本, 九
- 20a. 後盾板に刺状の突起がある.
 21
- 20aa. 後盾板に突起はない.
 22
- 21a. 体の基本色は黒色から青黒色 (図15-7, 15-10).
- 21b. 後盾板の突起は鋭角状に長く後方に伸びる.
- 21c. 腹端に下方を向く1対の歯をもつ.
 フタツバトゲセイボウ *Elampus bidens* (Förster, 1853) 北, 本, 四, 九
- 21aa. 体の基本色はメスでは頭部, 胸部が紫青色, 腹部が金緑色 (図15-8), オスでは全体が
 青緑色 (図15-9).
- 21bb. 後盾板の突起は短い.
- 21cc. 腹端に下方を向く1対の葉状突起があるが, 歯はない.
 ムサシトゲセイボウ *Elampus musashinus* (Tsuneki, 1986) 本
- 22a. 頭頂部後半, 前胸背板, 中胸背板の大部分で点刻を欠き, 光沢を有す (図16-4).
 ムネツヤセイボウ *Omalus aeneus* (Fabricius, 1787) 北, 本, 九
- 22aa. 頭部, 胸部は点刻でおおわれる.
 23
- 23a. 中胸背板の盾板には, 中胸背縦斜溝にそって大点刻が見られる.
 24

- 23aa. 中胸背板の盾板には、中胸背縦斜溝の間に大点刻が見られ、特に盾板後方部に多く見られる。
 25
- 24a. 前胸、中胸背板の点刻間に細かい粒状彫刻がある。
- 24b. 腹端に突出した1対の突起がある。
- 24c. 腹部第1、第2背板は黒色 (図15-4).
 ナシヂセイボウ *Philoctetes harmandi* (Buysson, 1903) 北, 本, 九
- 24aa. 前胸、中胸背板の点刻間は平滑。
- 24bb. 腹端は丸みを帯び、突出した1対の突起はない。
- 24cc. 腹部第1、第2背板は緑色から青緑色 (図15-5, 15-6).
 ミヤマツヤセイボウ *Philoctetes monticola* (Tsuneki, 1975) 本
- 25a. 腹端はほぼ丸く、ほとんど切れ込みを欠く。
- 25b. 前脚腿節にへん平化した張り出しはない。
 オオツヤセイボウ *Pseudomalus grandis* (Tsuneki, 1950) 北, 本, 九
- 25aa. 腹端中央に三角形の切れ込みがある。
- 25bb. 前脚腿節にへん平化した張り出しがある。
 26
- 26a. 腹端の切れ込みは深く、多少とも釣り鐘形。
 エゾツヤセイボウ *Pseudomalus auratus* (Linnaeus, 1758) 北, 本
- 26aa. 腹端の切れ込みは浅い三角形状。
 27
- 27a. 頭部、胸部は青緑色、腹部は赤金色または黄金色 (図16-6).
 ハラアカツヤセイボウ *Pseudomalus nipponicus* (Tsuneki, 1970) 北, 本
- 27aa. 腹部は青緑色から紫堇色を基本色とする。
 28
- 28a. 腹部第1背板の前部側方に小突起がある。
- 28b. 触角第3節は短く、第2節とほぼ等しい長さ。
 イタミツヤセイボウ *Pseudomalus itamii* (Tsuneki, 1975) 本
- 28aa. 腹部第1背板の前部側方に突起はない。
- 28bb. 触角第3節は第1節や第4節よりも長い。
 29
- 29a. 前脚腿節下面のへん平部は狭い。
- 29b. 体は青緑色が基本色で、背面に広い黒色部をもつ (図16-7).
 30
- 29aa. 前脚腿節下面のへん平部は広い。
- 29bb. 体全体が緑青色から紫堇色 (図16-1~16-3).
 ジョウザンツヤセイボウ *Pseudomalus djozanus* (Tsuneki, 1970) 北, 本
- 30a. 側方から見て中胸、後胸、前伸腹節の各境界は深く刻み付けられる。
- 30b. 前胸背板は一樣に点刻され、平滑な部分はない。
 リシリツヤセイボウ *Pseudomalus babai* (Tsuneki, 1979) 北 (利尻島)

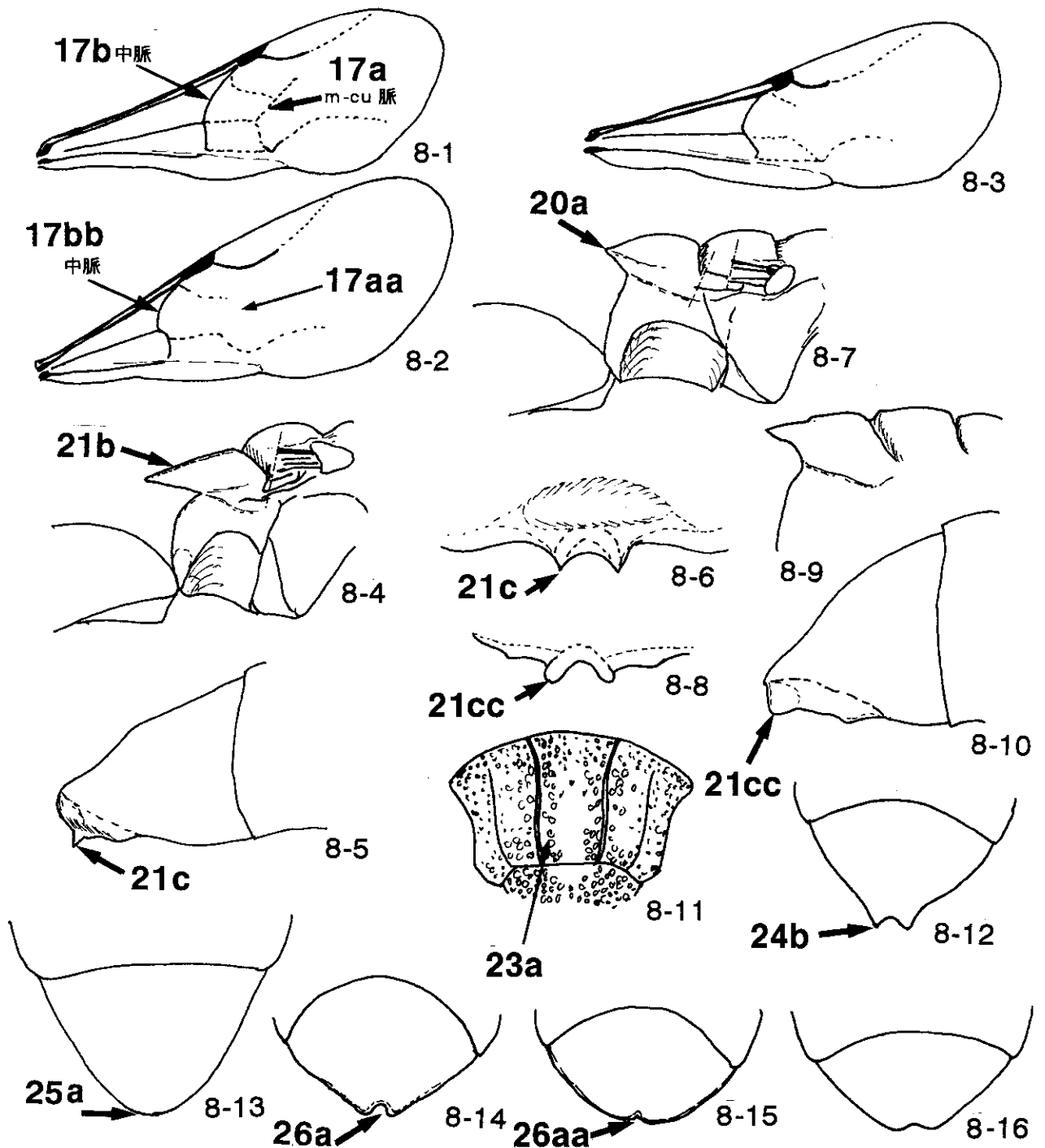


図8. セイボウ亜科 Chrysidinae の種検索 (4).

8-1, セイドウマルセイボウ *Hedychrum simile*; 8-2, イタミツヤセイボウ *Pseudomalus itamii*; 8-3, 8-7~8-10, ムサシトゲセイボウ *Elampus musashinus* (8-3, 8-7, 8-8, 8-10, メス; 8-8, 腹部第3節, 後面; 8-9, オス); 8-4~8-6, フタツバトゲセイボウ *Elampus bidens* (Förster, 1853) (8-6, 腹部第3節, 後面); 8-11, ミヤマツヤセイボウ *Philoctetes monticola*; 8-12, ナシヂセイボウ *Philoctetes harmandi*; 8-13, オオツヤセイボウ *Pseudomalus grandis*; 8-14, エゾツヤセイボウ *Pseudomalus auratus*; 8-15, ハラアカツヤセイボウ *Pseudomalus nipponicus*; 8-16, ジョウザンツヤセイボウ *Pseudomalus djozanus*.

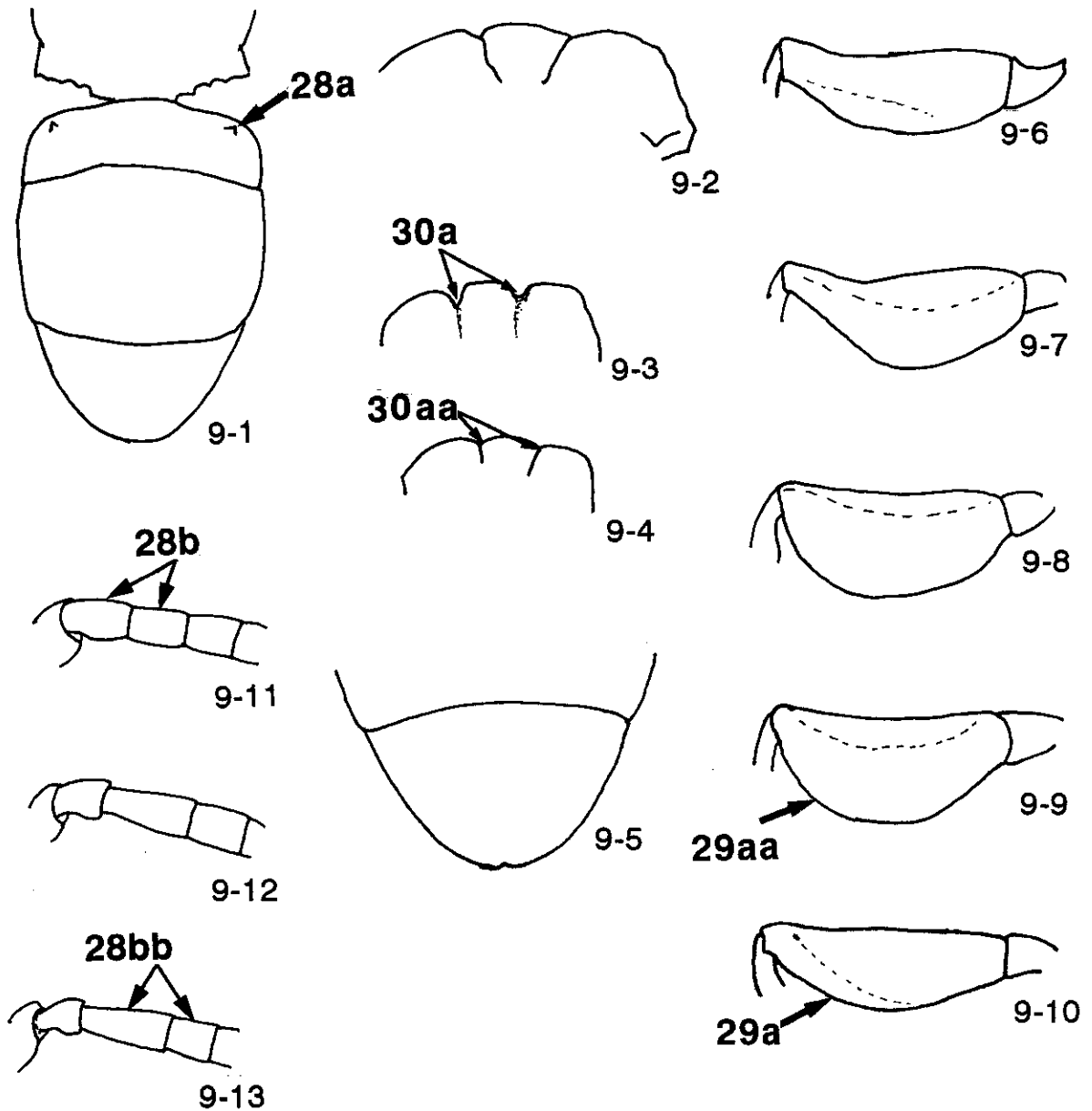


図9. セイボウ亜科 Chrysidinae の種検索 (5).

9-1, 9-2, 9-6, 9-11, イタミツヤセイボウ *Pseudomalus itamii* (9-11, オス); 9-3, リシリツヤセイボウ *Pseudomalus babai* (Tsuneki, 1979をもとに描く); 9-4, 9-5, 9-10, 9-13, ホシツヤセイボウ *Pseudomalus punctatus* (9-13, オス); 9-7, エゾツヤセイボウ *Pseudomalus auratus*; 9-8, ハラアカツヤセイボウ *Pseudomalus nipponicus*; 9-9, ジョウザンツヤセイボウ *Pseudomalus djozanus*; 9-12, ムネツヤセイボウ *Omalus aeneus* (オス).

30aa. 側方から見て中胸, 後胸, 前伸腹節の各境界の刻みは浅い.

30bb. 前胸背板は, 点刻をほとんど欠く平滑な面が主となる.

..... ホシツヤセイボウ *Pseudomalus punctatus* (Uchida, 1927) 北, 本, 九

種の概説

ナシヂセイボウ *Philoctetes harmandi* (Buysson, 1903) [図15-4]

体長5-8mm. 頭部は青緑色, 胸部は濃緑色からほぼ黒色. 前胸, 中胸背板の点刻間に細かい粒状点刻がある. 中胸背板の盾板には, 中胸背縦斜溝に添って大点刻が見られる. 腹部第1, 2節は黒色, 第3節も黒色の場合が多く, 腹端に突出した1対の突起がある.

本州では山地に生息する.

分布: 北海道, 本州, 九州.

ミヤマツヤセイボウ *Philoctetes monticola* (Tsuneki, 1975) [図15-5, 15-6]

体長6-8mm. 緑色から青緑色. 腹部第2背板は緑色味が強い. 色彩の他に, 胸背の点刻間は平滑であることと, 腹端は丸みを帯び, 突出した1対の突起はないことでナシヂセイボウと区別される.

分布: 本州.

フタツバトゲセイボウ *Elampus bidens* (Förster, 1853) [図15-7, 15-10]

体長7-9mm. 体色は黒色から青黒色. 後盾板に明瞭な突起がある.

日本産のものは亜種 *E. b. tristis* Tsuneki, 1970 と呼ばれる.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州; ヨーロッパ.

ムサシトゲセイボウ *Elampus musashinus* (Tsuneki, 1986) [図15-8, 15-9, 15-11]

体長3.5-5mm. メスは紫黒色で, 腹部は紅金色で緑色味を帯びる. オスでは青緑色で腹節第1背板の後縁付近, 第2背板側面と後縁付近, 第3節のほぼ全面は金緑色. 後盾板に刺状の突起がある.

メスは未記載であるが, 新里 (1986, p.125; *Elampus sp.* として報告) 及び南部 (1998, p.13) に全形図が示されている (図15-8, 15-11). これまでのところ, 平野部の河川敷で採集されている.

分布: 本州.

ルイスマルセイボウ *Hedychrum lewisi* (Cameron, 1887)

体長6mm. 体は青緑色で董色部がある. 腹部第3背板後側縁角に小突起を欠く. 前翅の中脈は中央付近で弱く弧をえがき, 逆走脈が弱いと認められる.

分布: 本州, 九州.

ハラアカマルセイボウ *Hedychrum japonicum* Cameron, 1887 [図15-2]

体長5-8mm. 頭部, 胸部は金緑色から青緑色. 腹部は赤色から紫紅色. 腹端に明瞭な歯状突起をもつ. 前翅の中脈はほぼ直線状で, 逆走脈が弱いと認められる.

平地から山地に生息するが, 特に山地に多い. ツチスガリ類 *Cerceris* の巣に寄生する.

分布: 北海道, 本州, 九州; 朝鮮半島.

オカマルセイボウ *Hedychrum okai* Tsuneki, 1954 [図15-3]

体長5-8mm. 黒紺色から暗紫色で, 金緑色や青緑色を各所に散りばめる. 腹端に明瞭な歯状突起

は見られない。前翅の中脈はほぼ直線状で、逆走脈が弱いと認められる。

ナミツチスガリ *Cerceris hortivaga* に寄生する可能性が指摘されている。

分布：北海道，本州，四国，九州，対馬；朝鮮半島。

セイドウマルセイボウ *Hedychrum simile* Mocsáry, 1889 [図15-1]

体長8-12mm。体は青銅色を帯びた黒色。前翅の中脈はほぼ直線状で、逆走脈が弱いと認められる。

原名亜種は中国と朝鮮半島に分布し、日本産の個体群は亜種 *H. s. aereum* Tsuneki, 1970 とされる。キスジツチスガリ *Cerceris arenaria* 等のツチスガリ類 *Cerceris* の巣に寄生する。

分布：本州；朝鮮半島，中国。

ムネツヤセイボウ *Omalus aeneus* (Fabricius, 1787) [図16-4]

体長5-6mm。体色は青色から青緑色で、背面に大きな黒色部をもつ。前胸，中胸背面の大部分で点刻を欠くことで他種とは容易に区別される。

日本産のものは亜種 *O. a. japonicus* (Bischoff, 1910) とされている。山地に多く、マエダテバチ属 *Psenulus* 及びイスカバチ属 *Passaloecus* の巣に寄生する。ヨーロッパではアリマキバチ属 *Pemphredon* への寄生例も知られている。

分布：北海道，本州，九州；ヨーロッパ。

エゾツヤセイボウ *Pseudomalus auratus* (Linnaeus, 1758)

体長4-6mm。体は緑色で、背面に黒色部をもつ。腹部の周縁部は赤褐色から赤紫色の色調となる場合がある。腹端の切れ込みは深く、多少とも釣り鐘形となる。

日本と朝鮮半島のものは亜種 *P. a. nigridorsus* (Tsuneki, 1953) とされている。寄主としてサップオアリマキバチ *Pemphredon rugifer* が知られている。

分布：北海道，本州；朝鮮半島，ヨーロッパ。

リシリツヤセイボウ *Pseudomalus babai* (Tsuneki, 1979)

体長5.5mm。エゾツヤセイボウに似るが、側方から見て中胸，後胸，前伸腹節の各境界がより深く刻み付けられることと、前胸と中胸背板は一様に点刻され、平滑な部分がないことで区別される。

利尻島の特産種で、これまでのところオスのみが知られている。

分布：北海道（利尻島）。

ジョウザンツヤセイボウ *Pseudomalus djozanus* (Tsuneki, 1970) [図16-1~16-3]

体長6-8mm。北海道の個体群（原名亜種：*P. d. djozanus* (Tsuneki, 1970)）は体全体が緑金色であるが、本州の個体群は黒みがかった紫堇色で、亜種 *P. d. hondonis* (Tsuneki, 1977) とされる。前脚腿節下面に広い扁平部をもつ。

ジョウザンアリマキバチ *Pemphredon flavistigma* への寄生が報告されている。

分布：北海道，本州。

オオツヤセイボウ *Pseudomalus grandis* (Tsuneki, 1950) [図16-5]

体長7-10mm. 日本産の本属の中では大形の種. 体は緑色で背面に多少の暗色部がある. 腹部第3節は長めで, かつ尾端にほとんど切り込みを欠く.

分布: 北海道, 本州, 九州.

イタミツヤセイボウ *Pseudomalus itamii* (Tsuneki, 1975) [図16-8]

体長5mm. 青緑色. 腹部第1背板の背方から見た前側縁付近に小突起があること(オスでは突出が弱い)と, 触角第3節は短く, 第2節とほぼ等しい長さであることで, 他種と容易に区別される. 腹端中央に浅い三角形状の切れ込みがある.

これまでのところ新潟県のみから知られ, 初夏と秋に出現する.

分布: 本州.

ハラアカツヤセイボウ *Pseudomalus nipponicus* (Tsuneki, 1970) [図16-6]

体長6-7mm. 頭部と胸部は緑青色で, 腹部は赤金色から黄金色. 腹端中央に浅い三角形状の切れ込みがある.

分布: 北海道, 本州.

ホシツヤセイボウ *Pseudomalus punctatus* (Uchida, 1927) [図16-7]

体長4-8mm. 体長にやや変異がある. 頭部と胸部は青緑色で背面に黒色部がある. 腹部は黒色. 前脚腿節下面の扁平部は狭い. 前胸背板の大部分が平滑である.

平地から山地にかけて生息し, 夏期に出現する. アリマキバチ類 *Pemphredon* とイスカバチ類 *Passaloeus* に寄生する.

分布: 北海道, 本州, 九州; 朝鮮半島.

クロバネセイボウ *Chrysis angolensis* Radoszkowski, 1881 [図10-4~10-6]

体長8-13mm. 体色は一様に緑青色または青緑色で, 腹部に赤, または淡色の部分を持たない. 翅は全体にくもる. 腹部末端に4歯をそなえる.

本土の個体群は体が紫堇色で亜種 *C. a. murasaki* Uchida, 1927とされ, 琉球産の個体群は青緑色から緑青色で亜種 *C. a. fuscipennis* Brullé, 1846とされる. ただし, 本土において琉球産とほぼ同様な色彩をもつ個体が得られる一方で, 琉球で, 本土産と同様の紫堇色の個体も見られる.

クモを狩猟するヤマトルリジガバチ *Chalybion japonicum* 及びキゴシジガバチ *Sceliphron madraspatanum* への寄生が知られている. 台湾ではモンキジガバチ *Sceliphron deforme* が寄生を受けることが知られている.

分布: 本州, 四国, 九州, 対馬, 琉球; 朝鮮半島, 中国, 東アジア, 東南アジア, インド.

オガサワラセイボウ *Chrysis boninensis* Tsuneki, 1983

体長6mm. 体は青緑色. 触角第1節(柄節)から第5節までは金属光沢に富んだ青色. 触角第3節は第4節の1.5倍の長さ. 腹端には歯がなく, 背方から見て中央が強く弧状に突出する. オスは未知.

分布: 小笠原(父島).

ムツバセイボウ *Chrysis fasciata* Oliver, 1790 [図11-2, 11-4]

体長10-12mm. 頭部および胸部は紫青斑をそなえた青緑色, 腹部は紫青色で腹部各節の後縁に紅金あるいは緑金の横帯がある. 腹部第3節に6歯をそなえる.

旧北区に広く分布し, 日本では北海道から北琉球(屋久島)まで生息している. 日本, 韓国, 中国北部のものには亜種 *C. f. daphne* Smith, 1874の名が与えられている. 各地に比較的普通に見られ, ヤマトフタスジズバチ *Discoelius japonicus* に寄生する.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 佐渡, 屋久島; 朝鮮半島, 中国.

ホソセイボウ *Chrysis galloisi* (Buysson, 1908) [図12-1, 12-2]

体長6-9mm で体の細長い種. 頭部, 胸部は緑色あるいは青緑色, 腹部は紫堇色から暗青色で, 後縁は金紅色や金緑色の帯をもつ. 腹端に4歯をもち, 内側の2歯間の間隔が内側と外側との歯間の間隔よりも明らかに大きい.

ハムシドロバチ類 *Symmorphus* に寄生し, 5月から9月頃まで普通に見られる.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州; 朝鮮半島, 中国, ロシア.

リンネセイボウ *Chrysis ignita* (Linnaeus, 1758) [図11-1, 11-6]

体長4-15mm. 体色は変化が多いが, 頭部, 胸部は緑青色から黒緑色で, 腹部は赤色主体であるが, 個体によっては褐色, 金緑色等が混ざる. 腹部末端に4歯をもつ.

旧北区に広く分布し, 多くの亜種が記載されているが本格的な整理はなされていない. また幾つかの種に分割される可能性もある.

日本では北海道から北琉球(屋久島)まで分布し, 平地から山地にかけて見られる. ミカドドロバチ *Euodyrerus nipanicus*, オオフタオビドロバチ *Anterhynchium flavomarginatum* 等のドロバチ類に寄生する.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島; 中国, シベリア, カラフト, ユーラシア, 北アフリカ, 北米.

ナミハセイボウ *Chrysis japonica* Cameron, 1887 [図13-5]

体長7-10mm. 体は緑色で黄銅色の光沢を含む. 尾端には4つの波状突起があり, 歯を欠く.

4-5月に出現し, ハムシドロバチ類 *Symmorphus* の巣に寄生する.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬; 朝鮮半島.

コマチセイボウ *Chrysis komachi* Tsuneki, 1954 [図12-3, 12-4]

体長8-10mm. 頭部, 胸部は緑色で紫黒色の部分をもつ. 脚は金緑色. 腹部は金緑色で第1背板の基方は緑色, 第2, 第3背板に対をなす紫堇色斑があるが, 斑紋のサイズは変異が大きく, 大きく発達する場合は左右の紋が一つに融合する. また, 第3背板には斑紋が見られない場合もある. 腹端に4歯をそなえる. 色彩の変異については Tsuneki (1954) に詳しい.

分布: 本州.

ノヒラセイボウ *Chrysis nohirai* Tsuneki, 1952

体長7mm. 体全体が青緑色の細長い種. 頭盾, 体側面は緑金色. 腹部後縁は銅金色. 腹端に4歯をそなえる.

分布: 小 (父島).

タイワンセイボウ *Chrysis principalis* Smith, 1874 [図13-3]

体長9-13mm. 体は緑青色で, 頭部の額, 体側面, 脚, 腹節後縁は緑か金緑色. 形態的にリュウキュウセイボウに似るが, 色彩の相違のほかに, 触角第3節が長く, 第2節の2倍の長さがあることと, 腹部第3節の点刻が疎であることで区別される.

東南アジアからインドにかけて広く分布するが, 日本では奄美大島からのみ記録されている.

分布: 琉球 (奄美大島); 朝鮮半島, 台湾, 中国, 東南アジア, インド, ヒマラヤ, スリランカ.

ツマアカセイボウ *Chrysis rubripyga* Tsuneki, 1950 [図12-5, 12-6]

体長6-12mm. 頭部, 胸部は金緑色ないし暗堇色. 腹部第1背板の基部は金緑色, 第1背板の基部を除く多くの部分と第2背板基部は紫堇色, 第2背板と第3背板の後縁は金紅色, 第3背板は赤色から紅紫色. 腹端は鋭い4歯をそなえる.

山地に多く, シブヤスジドロバチ *Ancistrocerus trifasciatus* への寄生例が知られている. 5月から9月頃まで見られる.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州; 朝鮮半島, ロシア.

ツمامラサキセイボウ *Chrysis splendidula* Rossi, 1790 [図11-3, 11-5]

体長6-9mm. 腹部末端に4歯をもつ. 頭部, 胸部は緑青色から黒緑色. 腹部は第1, 2節が赤色から赤紫色で, 第3節が紫青色である. 腹端に4歯をそなえる.

キオビチビドロバチ *Stenodynerus frauenfeldi* やトックリバチ類 *Eumenes* の巣に寄生する. 旧北区に広く分布し, 日本では北海道から九州, 北琉球 (口永良部島) まで記録されている.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬, 口永良部島; 朝鮮半島, ロシア, ヨーロッパ, 北アフリカ.

ヨシブエセイボウ *Chrysis syrinx* Tsuneki, 1950 [図13-4]

体長6-8mm で体は細長い. 体は紫堇色で腹部の各節後縁は金紅色となる. 腹部第3節は紫堇色で, 金緑色あるいは金紅色の顕著な横帯をもつ. ホソセイボウに似るが, メスの腹端の4歯は等間隔であることや腹節第2背板の後側角がより角ばり突出することで区別される.

ハムシドロバチ類 *Symmorphus* に寄生すると推定されている.

分布: 北海道, 本州, 対馬; 朝鮮半島.

リュウキュウセイボウ *Chrysis vicaria* Mocsáry, 1913 [図13-1, 13-2]

体長8-10mm. 青緑色で腹節背板の各後縁は金色の帯になる. 腹部第3節に6歯をそなえるが, 最も外側のものは小さい. また, 第3節には小さい点刻が密集して見られる. 触角第3節は第2節の約1.5倍の長さ.

南西諸島の中琉球（奄美大島，沖縄島），南琉球（石垣島，西表島）から台湾にかけて分布し，南西諸島では普通種である。

分布：琉球；台湾，中国（?）。

イワタセイボウ *Chrysura hirsuta* (Gerstaecker, 1869)

体長9mm. 頭部，胸部，脚は青緑色．腹部は紅紫色で，各節後縁付近で紫色の色彩がやや強い．腹端に歯状突起を欠く．

春季に出現し，カタツムリの空殻に営巣するマイマイツツハナバチ *Osmia orientalis* の巣に寄生する．

分布：本州；朝鮮半島，中国，ヨーロッパ．

ミツバセイボウ *Trichrysis cyanea* (Linnaeus, 1758) [図13-7, 13-8]

体長3-5mm. 頭部，胸部は青緑色で腹部は藍青色．前胸背板中央の凹みは浅く，側縁部は稜縁とはならない．腹端に3歯をそなえるが，両側歯は角ばるだけで突出が弱い．また，歯間の縁部はほぼ直線状．第3背板の側縁は側方から見てほぼ直線状で，かつ稜縁とはならない．

平地から山地にかけて比較的普通に見られ，ジガバチモドキ類 *Trypoxylon* に労働寄生する．ヨーロッパではジガバチモドキ類の他に，アリマキバチ類 *Pemphredon* やマエダテバチ類 *Psenulus* への寄生例もある．

分布：北海道，本州；朝鮮半島，インド，ヨーロッパ．

サオヒメセイボウ *Trichrysis saohime* (Tsuneki, 1950)

体長6mm. 体緑色味の強い青緑色．前胸背中央の凹みは深く，側縁は稜縁となる．腹端に歯状に発達した3歯をそなえる．腹部第3背板の側縁は明瞭な稜をつくり，側方から見てほぼ直線状．リュウキュウミツバセイボウの同物異名とされる場合があるが，ここでは独立種との見解を採った．

分布：本州；朝鮮半島．

スタミツバセイボウ *Trichrysis sudai* (Tsuneki, 1977)

体長7mm. 体は明るい緑色．腹端に3歯をそなえるが，歯の突出は弱い，歯間の縁部は明らかに波状に突出する．また，腹部第3背板の側縁は稜をつくらず，側方から見てほぼ直線状．

分布：本州．

リュウキュウミツバセイボウ *Trichrysis triacantha* (Mocsáry, 1889) [図13-6]

体長5-7mm. 体は緑青色．前胸背板中央部は比較的深く凹み，側縁部は稜縁となる．腹端に鋭く突出した3歯をもち，歯間の縁部は多少とも弧をえがく．また，腹部第3背板の側縁は稜縁となり，側方から見て弱く弧をえがく．

C. formosana (タイワンミツバセイボウ) は本種の同物異名とされ，その亜種 *C. f. amamiensis* (アマミセイボウ) も暫定的に本種の同物異名とした．台湾，南琉球，中琉球のそれぞれの個体群間で，色彩や腹部第3節の大点刻列等に多少の地理的変異が見られる．個体変異については羽田(1989) に詳しい．ドロバチ類に寄生する．

分布：琉球；台湾，フィリピン，インドネシアからスリランカ。

ミドリセイボウ *Praestochrysis lusca* (Fabricius, 1804) [図14-2, 14-4]

体長10-13mm. 体は緑色から青緑色. 中胸背板中葉は暗紫色. 腹部第2節両側にはしばしば金紅色ないし赤金色の紋をもち，発達程度には変異がある. 腹端に5歯をもつ.

東洋区を中心に広く分布し，ニューギニアやハワイ，オーストラリア北部からも記録されている. 日本本土ではヤマトルリジガバチ *Chalybion japonicum* への寄生が知られている. 台湾でもルリジガバチ類への寄生が報告されている.

分布：北海道，本州，四国，九州，対馬，琉球，小笠原；東アジア，東南アジア，インド，スリランカ，ニューギニア，オーストラリア，ハワイ，南ヨーロッパ.

イラガセイボウ *Praestochrysis shanghaiensis* (Smith, 1874) [図14-1, 14-3]

体長9-12mm. 体は青緑色. 腹端に5歯をもつ.

イラガ *Monema flavescens* の前蛹に外部捕食寄生し，6月から7月にかけてイラガの繭から成虫が羽化する. 西南日本では年2化が確認されている. 本種のメスはイラガの繭を初めは大あごでかじり小孔を空け，そこから産卵管を突き立て中にいる前蛹を刺し，その後に産卵を行う. 本種は，明治期に上海あたりから日本に持ち込まれた移入種であることが指摘されている. また，北進昆虫の一つとしても知られている.

分布：本州，四国，九州；台湾，朝鮮半島，中国，東南アジア，ヒマラヤ，インド.

オオセイボウ *Stilbum cyanurum* (Förster, 1771) [図10-1~10-3]

体長7-20mm. 色彩は変化に富み紫堇色から青緑色. 頭部および体側部は緑金色になる個体もある. 腹端に突出した4歯をもつ.

本種には色彩を中心に区分された多くの亜種が設定されているが，この色彩形質による分類で安定した地域集団を見出すことはできず，本種については亜種を設定しない見解を採った. 本土では紫堇色が基本色となる一方，琉球産の個体では青緑色が基本色となる.

本種は体長にも大小の個体変異が見られ，巢中に餌として準備された寄主の量を反映しているものと推定される. 基本的にトックリバチ類 *Eumenes* に労働寄生をするが，日本本土ではスズバチ *Oreumenes decoratus* の巢に最も多く見い出される. その他，オオフタオビドロバチ *Anterhynchium flavomarginatum* やアメリカジガバチ *Sceliphron caementarium* の巢への寄生例もある. 本州では平地から低山地にかけて見られる. 東南アジアではハリキリバチ類にも寄生する.

分布：本州，四国，九州，対馬，琉球；朝鮮半島，台湾，東南アジア.

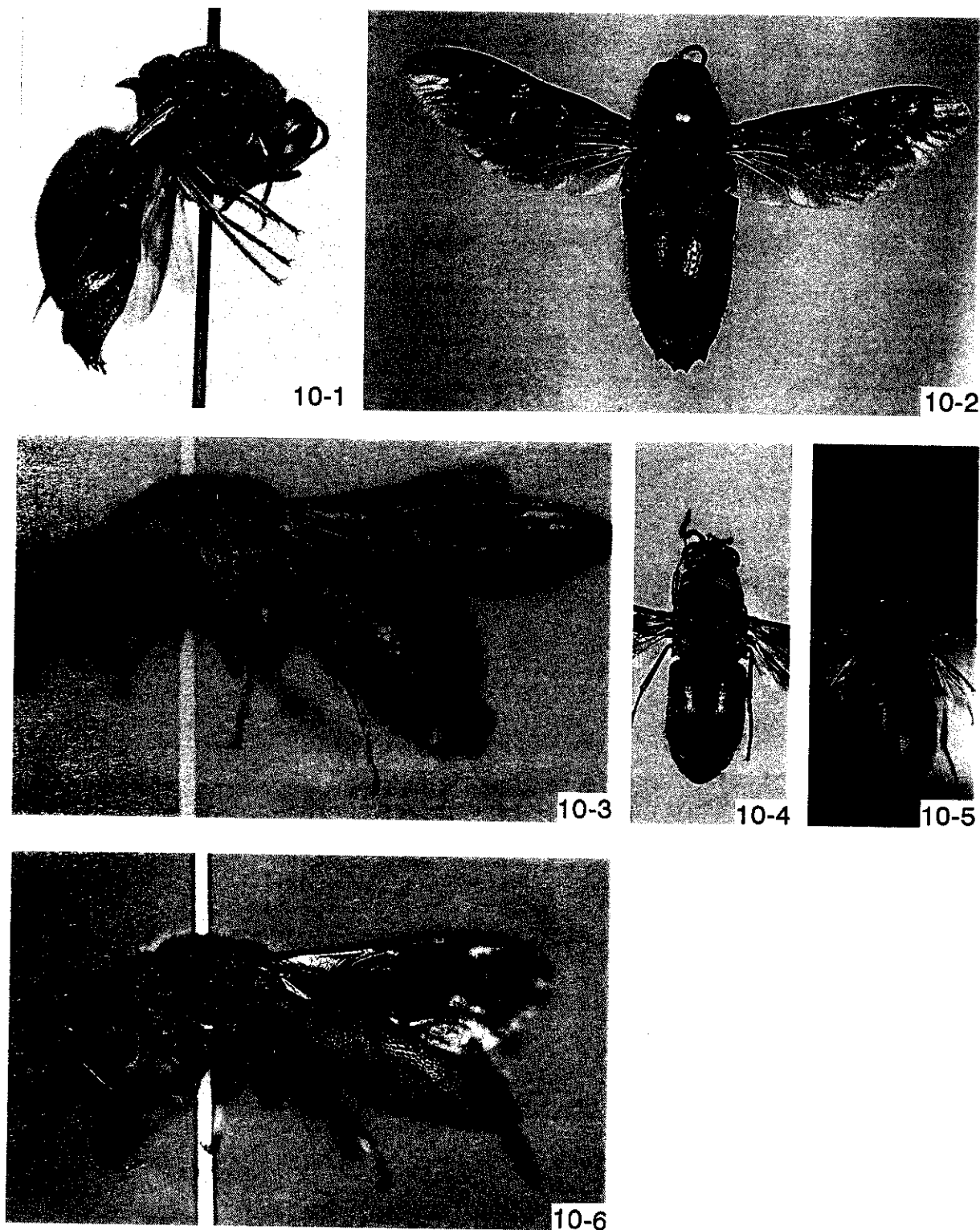


図10. セイボウ亜科 Chrysidinae の種 (1).

10-1～10-3, オオセイボウ *Stilbum cyanurum* (メス; 10-1, 沖縄個体群; 10-2, 10-3, 本土個体群); 10-4～10-6, クロバネセイボウ *Chrysis angolensis* (メス; 10-4, 沖縄亜種; 10-5, 10-6, 本土亜種).

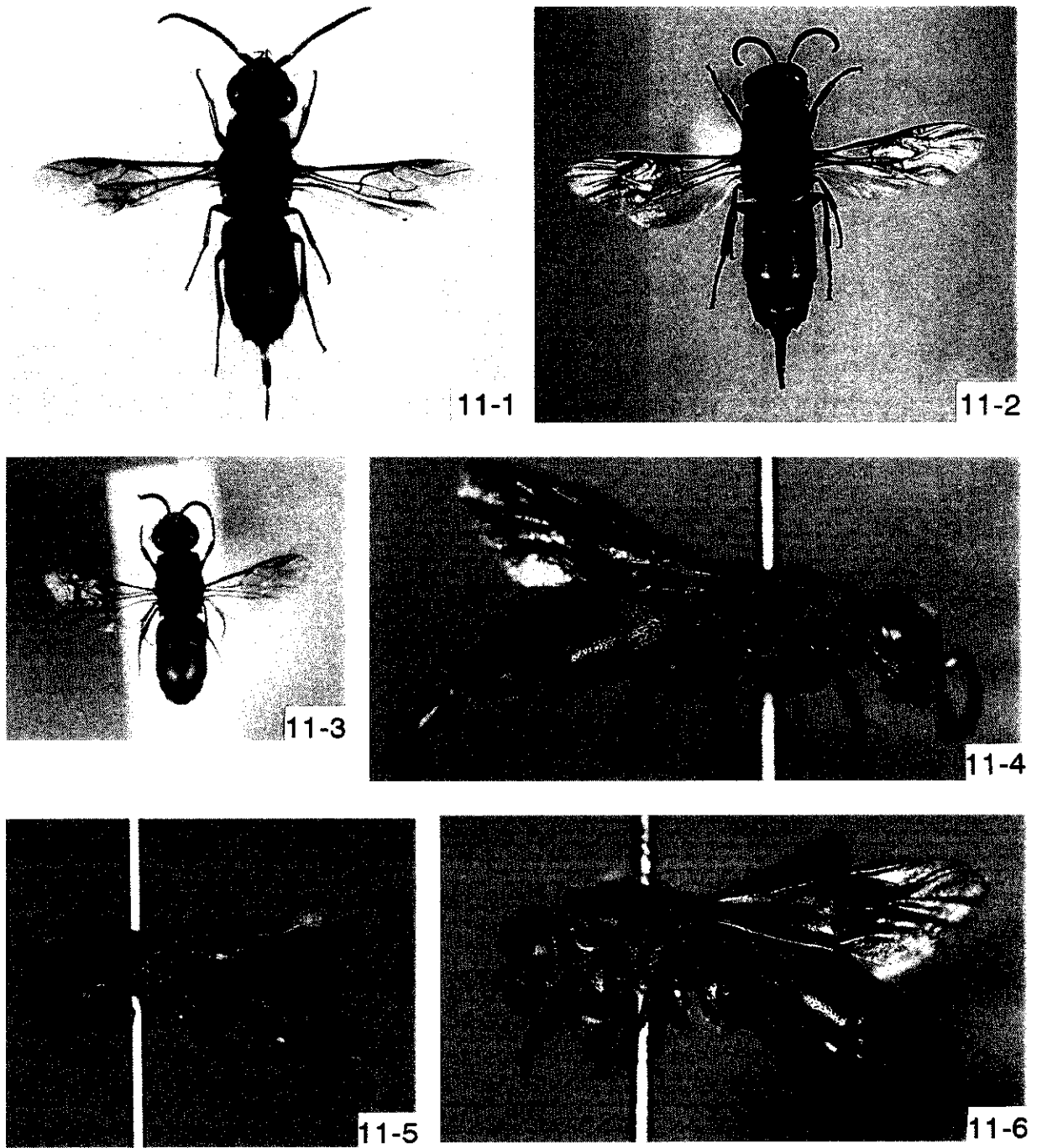


図11. セイボウ亜科 Chrysidinae の種 (2).

11-1, 11-6, リンネセイボウ *Chrysis ignita*, メス ; 11-2, 11-4, ムツバセイボウ *Chrysis fasciata*, メス ; 11-3, 11-5, ツمامラサキセイボウ *Chrysis splendidula*, メス.

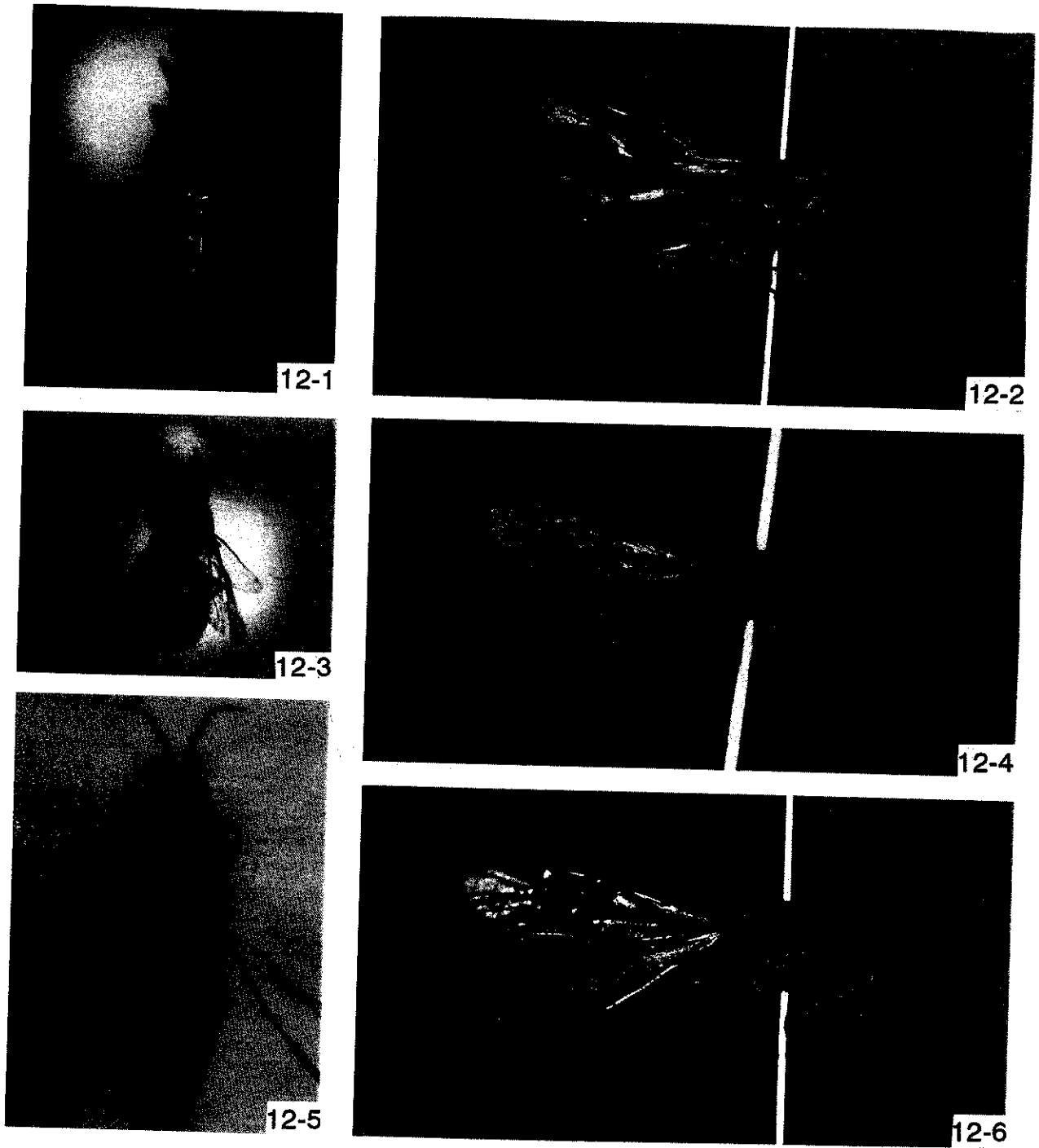


図12. セイボウ亜科 Chrysidinae の種 (3).

12-1, 12-2 ; ホソセイボウ *Chrysis galloisi*, メス ; 12-3, 12-4, コマチセイボウ *Chrysis komachi*, メス ; 12-5, 12-6, ツマアカセイボウ *Chrysis rubripyga*, メス.

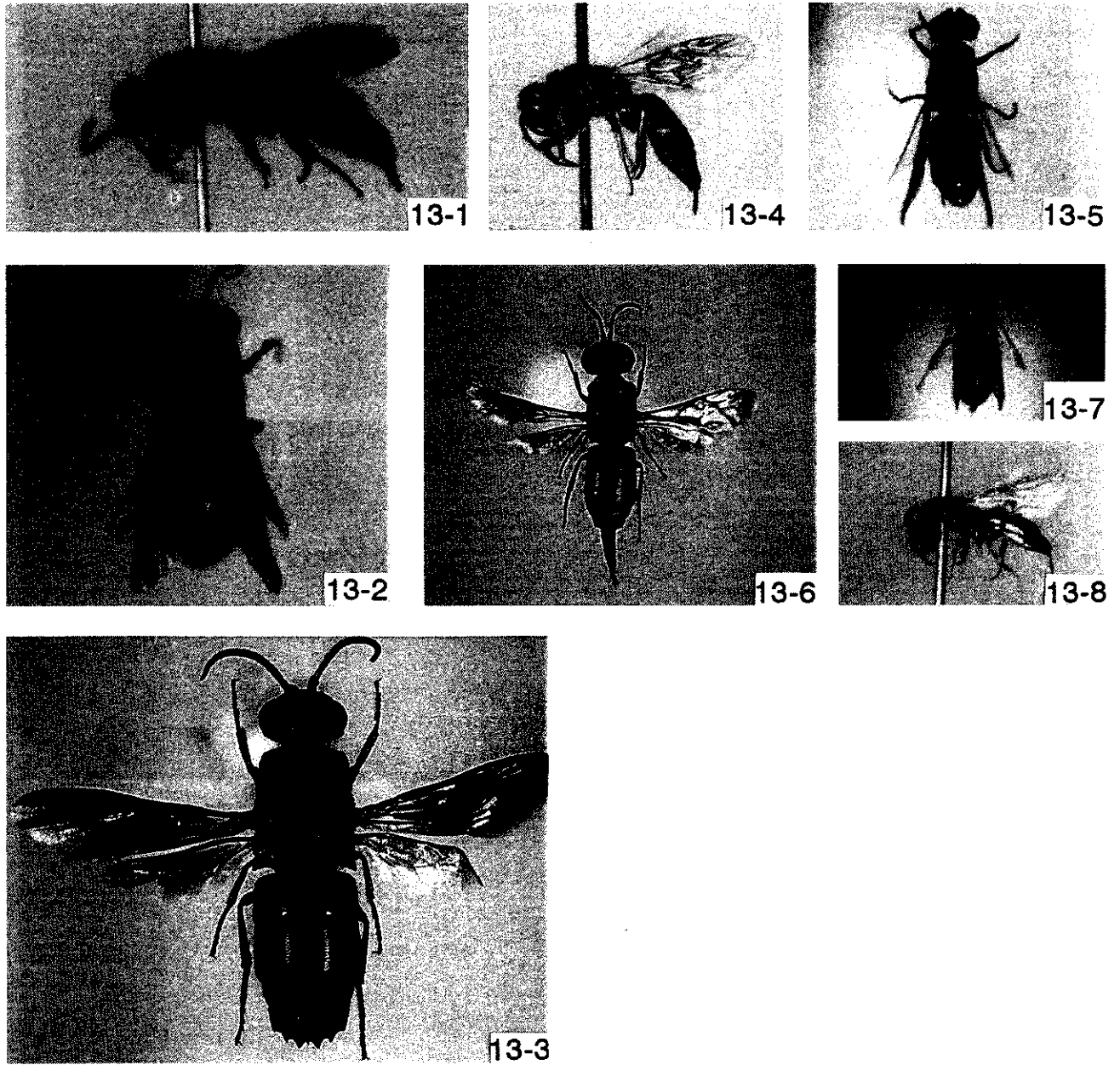
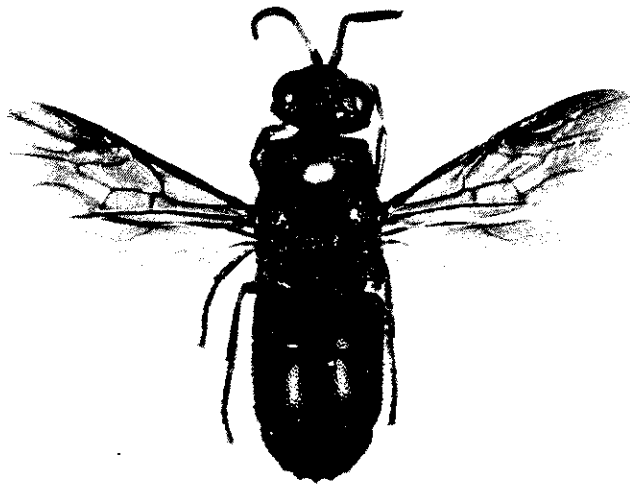
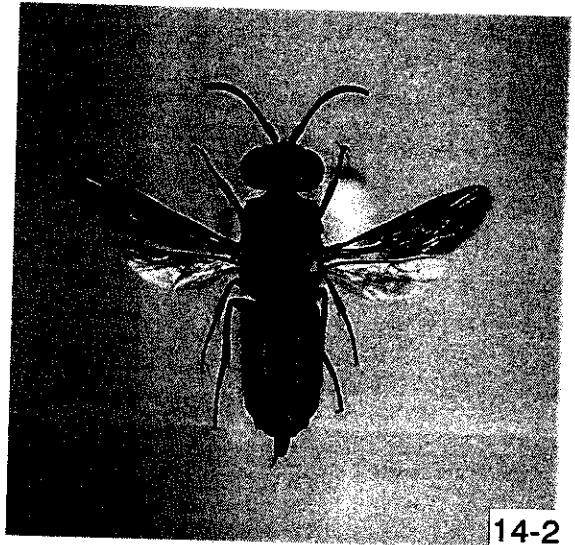


図13. セイボウ亜科 Chrysidinae の種 (4).

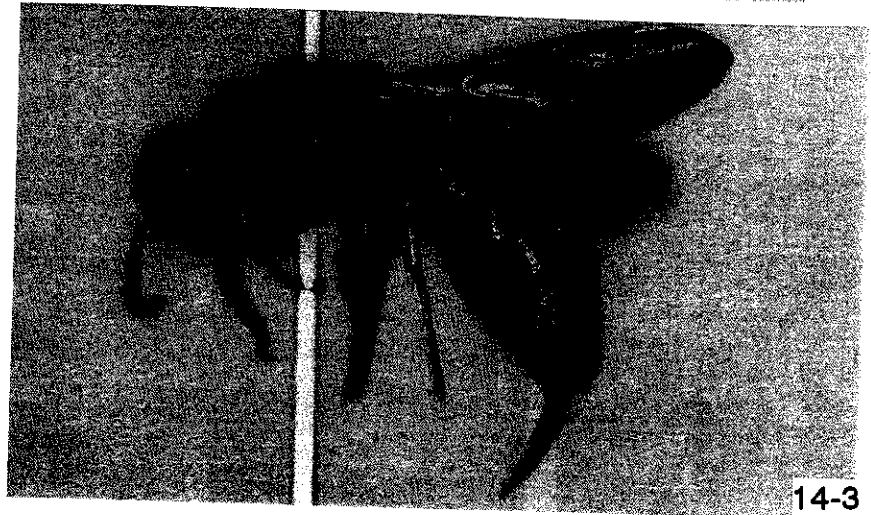
13-1, 13-2, リュウキュウセイボウ *Chrysis vicaria*, メス ; 13-3, タイワンセイボウ *Chrysis principalis*, メス ; 13-4, ヨシブエセイボウ *Chrysis syrinx*, メス ; 13-5, ナミハセイボウ *Chrysis japonica*, メス ; 13-6, リュウキュウミツバセイボウ *Trichrysis triacantha*, メス ; 13-7, 13-8, ミツバセイボウ *Trichrysis cyanea*, メス.



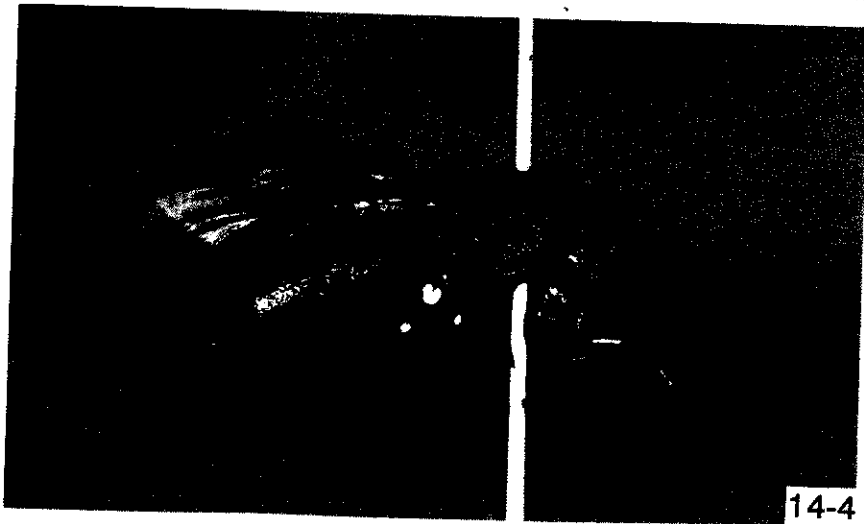
14-1



14-2



14-3



14-4

図14. セイボウ亜科 Chrysidinae の種 (5).

14-1, 14-3, イラガセイボウ *Praestochrysis shanghaiensis*, メス ; 14-2, 14-4, ミドリセイボウ *Praestochrysis lusca*, メス.

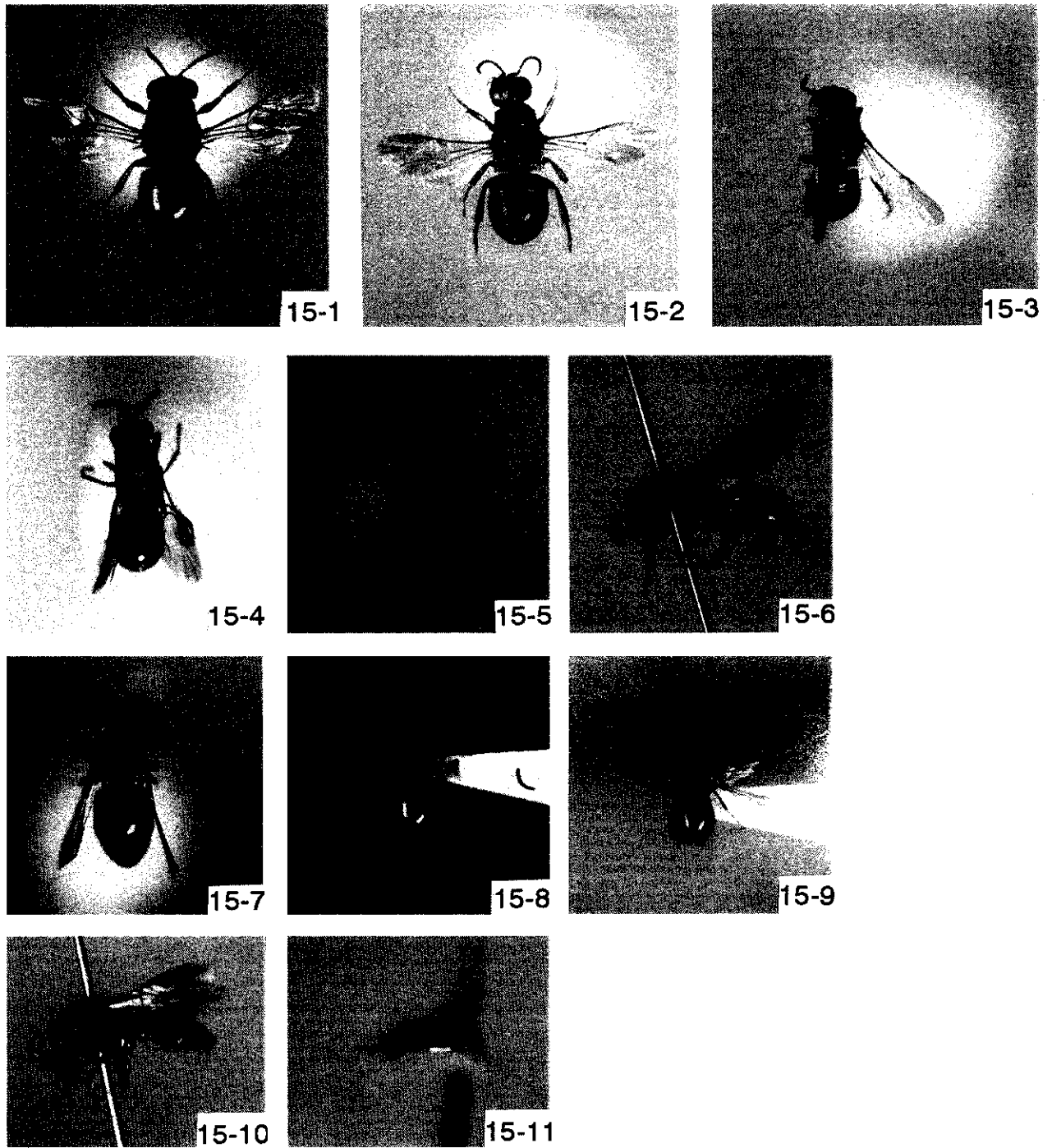


図15. セイボウ亜科 Chrysidinae の種 (6).

15-1, セイドウマルセイボウ *Hedychrum simile*, メス; 15-2, ハラアカマルセイボウ *Hedychrum japonicum*, メス; 15-3, オカマルセイボウ *Hedychrum okai*, メス; 15-4, ナシヂセイボウ *Philoctetes harmandi*, メス; 15-5, 15-6, ミヤマツヤセイボウ *Philoctetes monticola*, メス; 15-7, 15-10, フタツバトゲセイボウ *Elampus bidens*, メス; 15-8, 15-9, 15-11, ムサシトゲセイボウ *Elampus musashimus* (15-8, 15-11, メス; 15-9, オス).

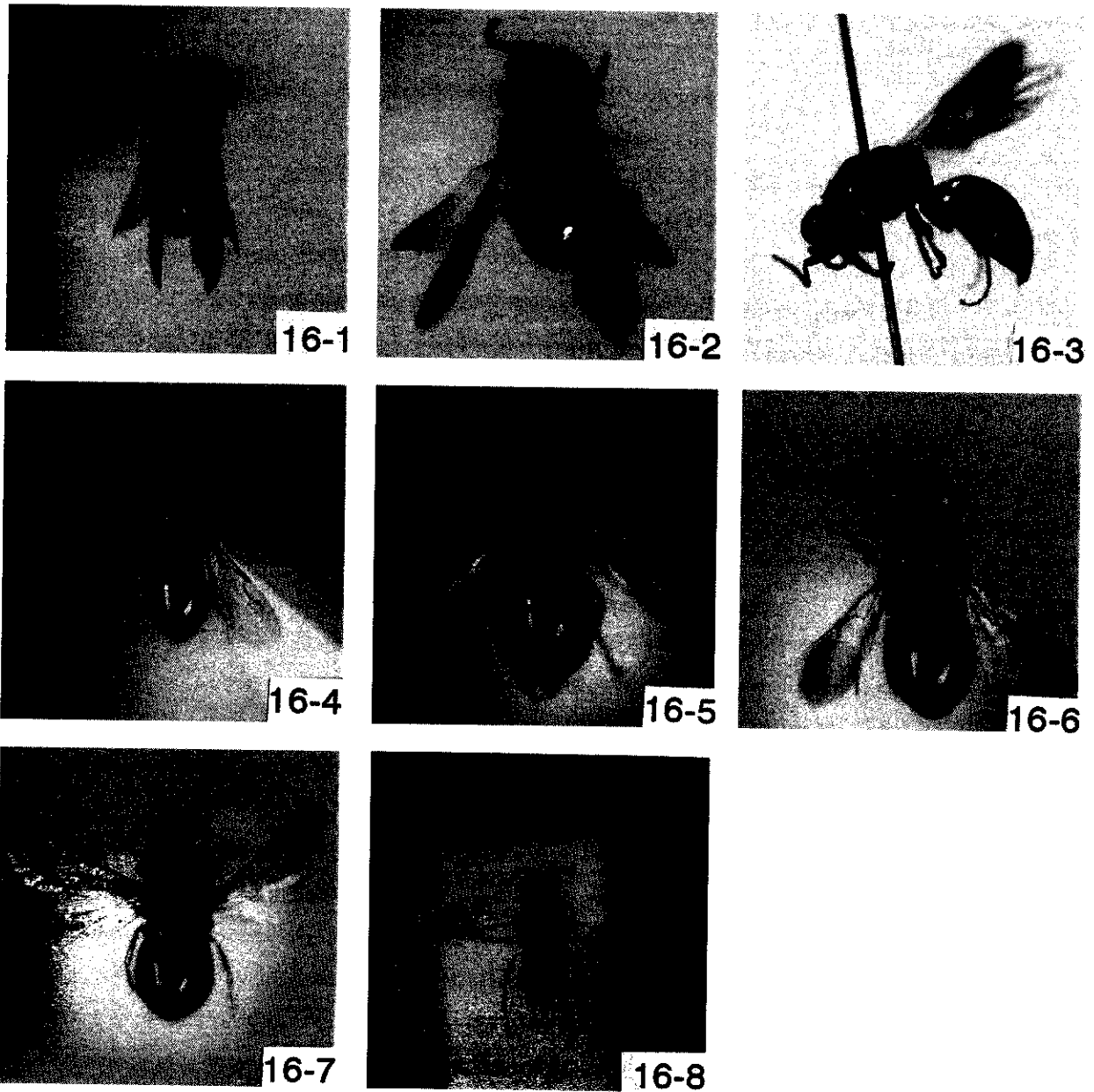


図16. セイボウ亜科 Chrysidinae の種 (7).

16-1~16-3, ジョウザンツヤセイボウ *Pseudomalus djizanus*, メス (16-1, 本州亜種; 16-2, 16-3, 原名亜種 (北海道亜種)); 16-4, ムネツヤセイボウ *Omalus aeneus*, メス; 16-5, オオオツヤセイボウ *Pseudomalus grandis*, メス; 16-6, ハラアカツヤセイボウ *Pseudomalus nipponicus*, メス; 16-7, ホシツヤセイボウ *Pseudomalus punctatus*, メス; 16-8, イタミツヤセイボウ *Pseudomalus itamii*, オス.

日本産セイボウ科 Chrysididae 目録

Family Chrysididae セイボウ科

Subfamily Loboscelidiinae カブトバチ亜科

Loboscelidia maai (Lin, 1964) カブトバチ 八; 台

Subfamily Amiseginae ナナフシバチ亜科 (ナナフシセイボウ亜科)

Cladobethylus japonicus Kimsey, 1986 ヤマトナナフシバチ 本

Nipponosega yamanei Kurzenko & Lelej, 1994 ナナフシバチ (ナナフシセイボウ) 本, 屋

Nipponosega kantoensis Nagase, 1995 カントウナナフシバチ (カントウナナフシセイボウ) 本

Okinawasega eguchii Terayama, 1999 オキナワナナフシバチ 八

Calosega kamiteta Terayama, 1999 トゲナナフシバチ 本, 奄, 沖, 八

Subfamily Cleptinae セイボウモドキ亜科

Cleptes crassiceps Tsuneki, 1959 アタマセイボウモドキ 北, 本, 四

Cleptes fudzi Tsuneki, 1959 フジセイボウモドキ 本

Cleptes japonicus Tosawa, 1940 ヤマトセイボウモドキ 本

Cleptes mishimaensis Tsuneki, 1986 ミシマセイボウモドキ

Cleptes mishimaensis mishimaensis Tsuneki, 1986 ミシマセイボウモドキ本州亜種・ミシマセイボウモドキ 本

Cleptes mishimaensis hokkaidoi Móczár, 2000 ミシマセイボウモドキ北海道亜種・ホッカイセイボウモドキ 北

Cleptes satoi Tosawa, 1940 サトウセイボウモドキ 本, 四

Cleptes venustus Tsuneki, 1966 ヒウラセイボウモドキ 本

Cleptes galloisi Uchida, 1926 ガロアセイボウモドキ 日本 (正体不明種); 朝

Subfamily Chrysidinae セイボウ亜科

Philoctetes harmandi (Buysson, 1903) ナシヂセイボウ 北, 本, 九

Ellampus harmandi Buysson, 1903

Chrysellampus harmandi (Buysson, 1903)

Chrysellampus harmandi f. *viridimaculatus* Tsuneki, 1950 (Invalid name.)

Philoctetes monticola (Tsuneki, 1975) ミヤマツヤセイボウ 本

Omalus monticola Tsuneki, 1975

Elampus bidens (Förster, 1853) フタツバトゲセイボウ

Elampus bidens tristis Tsuneki, 1970 フタフバトゲセイボウ本土亜種・フタツバトゲセイボウ 北, 本, 四, 九

Elampus musashinus (Tsuneki, 1986) ムサシトゲセイボウ 本

Omalus (*Notozus*) *musashinus* Tsuneki, 1986

- Elampus* sp.: Niisato, 1986
- Hedychrum japonicum* Cameron, 1887 ハラアカマルセイボウ 北, 本, 九; 朝
- Hedychrum gerstackeri japonicum* Cameron, 1887
- Hedychrum lewisi* (Cameron, 1887) ルイスマルセイボウ 本, 九
- Holopyga lewisi* Cameron, 1887
- Hedychrum okai* Tsuneki, 1954 オカマルセイボウ 北, 本, 四, 九, 対; 朝
- Hedychrum simile* Mocsa'ry, 1889 セイドウマルセイボウ 本; 朝, 中
- Hedychrum simile aereum* Tsuneki, 1970 セイドウマルセイボウ本土亜種・セイドウマルセイボウ 本
- Omalus aeneus* (Fabricius, 1787) ムネツヤセイボウ 北, 本, 九; ヨーロッパ
- Omalus aeneus japonicus* (Bischoff, 1910) ムネツヤセイボウ本土亜種・ムネツヤセイボウ 北, 本, 九
- Pseudomalus auratus* (Linnaeus, 1758) エゾツヤセイボウ 北, 本; 朝, ヨーロッパ
- Pseudomalus auratus nigradorsus* (Tsuneki, 1970) エゾツヤセイボウ本土亜種・エゾツヤセイボウ 北, 本
- Ellampus auratus* f. *nigradorsus* Tsuneki, 1953 (Invalid name.)
- Ellampus auratus nigradorsus* Tsuneki, 1970
- Pseudomalus babai* (Tsuneki, 1979) リシリツヤセイボウ 北 (利尻島)
- Omalus babai* Tsuneki, 1979
- Pseudomalus djozanus* (Tsuneki, 1970) ジョウザンツヤセイボウ
- Pseudomalus djozanus djozanus* (Tsuneki, 1970) ジョウザンツヤセイボウ北海道亜種・ジョウザンツヤセイボウ 北
- Omalus djozanus djozanus* Tsuneki, 1970
- Pseudomalus djozanus hondonis* (Tsuneki, 1977) ジョウザンツヤセイボウ本州亜種・ホンドツヤセイボウ 本
- Omalus djozanus hondonis* Tsuneki, 1977
- Pseudomalus grandis* (Tsuneki, 1950) オオツヤセイボウ 北, 本, 九
- Ellampus grandis* Tsuneki, 1950
- Omalus grandis* (Tsuneki, 1950)
- Pseudomalus itamii* (Tsuneki, 1975) イタミツヤセイボウ 本
- Omalus itamii* Tsuneki, 1975
- Pseudomalus nipponicus* (Tsuneki, 1970) ハラアカツヤセイボウ 北, 本
- Omalus nipponicus* Tsuneki, 1970
- Pseudomalus punctatus* (Uchida, 1927) ホシツヤセイボウ 北, 本, 九; 朝
- Philoctetes punctatus* Uchida, 1927
- Omalus punctatus* (Uchida, 1927)
- Chrysis angolensis* Radoszkowski, 1881 クロバネセイボウ
- Chrysis angolensis fuscipennis* Brullé, 1846 クロバネセイボウ沖縄亜種・クロバネセイボウ 琉; 台, フィリピン, 東南アジア, インド

- Chrysis (Chrysis) fuscipennis fuscipennis* Brullé, 1846
- Chrysis angolensis murasaki* Uchida, 1927 クロバナセイボウ本土亜種・ホンダクロバナセイボウ 本, 四, 九, 対; 朝, 中
- Chrysis (Chrysis) fuscipennis murasaki* Uchida, 1927
- Chrysis boninensis* Tsuneki, 1984 オガサワラセイボウ 小 (父島)
- Chrysis (Chrysis) boninensis* Tsuneki, 1984
- Chrysis fasciata* Oliver, 1790 ムツバセイボウ
- Chrysis fasciata daphne* Smith, 1874 ムツバセイボウ本土亜種・ムツバセイボウ 北, 本, 四, 九, 佐, 屋; 朝, 中
- Chrysis (Hexachrysis) fasciata daphne* Smith, 1874
- Chrysis galloisi* (Buysson, 1908) ホソセイボウ 北, 本, 四, 九; 朝, 中, ロシア
- Chrysis (Chrysis) rubrifasciata* Tsuneki, 1950 (Synonymy by Tsuneki, 1970.)
- Chrysis ignita* (Linnaeus, 1758) リンネセイボウ
北, 本, 四, 九, 対, 屋; 中, シベリア, カラフト, ユーラシア, 北アフリカ, 北米
- Chrysis ignita* var. *violacea* Uchida, 1927
- Chrysis ignita yezoana* Uchida, 1933 (Replace name for *C. violacea* Uchida, 1927. Provisionally.)
- Chrysis japonica* Cameron, 1887 ナミハセイボウ 北, 本, 四, 九, 対; 朝
- Chrysis (Chrysogona) japonica* Cameron, 1887
- Chrysis astuta* Mocsáry, 1912 (Synonymy by Tsuneki, 1970.)
- Chrysis japonica* var. *cyanea* Uchida, 1927 (Provisionally.)
- Chrysis komachi* Tsuneki, 1954 コマチセイボウ 本
- Chrysis (Chrysis) komachi* Tsuneki, 1954
- Chrysis nohirai* Tsuneki, 1952 ノヒラセイボウ 小 (父島)
- Chrysis (Chrysis) nohirai* Tsuneki, 1952
- Chrysis principalis* Smith, 1874 タイワンセイボウ 奄; 台, 朝, 東南アジア, インド
- Chrysis (Pentachrysis) principalis* Smith, 1874
- Chrysis rubripyga* Tsuneki, 1950 ツマアカセイボウ 北, 本, 四, 九; 朝, ロシア
- Chrysis (Chrysis) sarafschana rubripyga* Tsuneki, 1950
- Chrysis splendidula* Rossi, 1790 ツمامラサキセイボウ
北, 本, 四, 九, 対, 沖; 朝, ロシア, ヨーロッパ, 北アフリカ
- Chrysis (Chrysis) splendidula* Rossi, 1790
- Chrysis viridula* var. *apicata* Uchida, 1927 (Synonymy by Tsuneki, 1970.)
- Chrysis syrinx* Tsuneki, 1950 ヨシブエセイボウ 北, 本, 対; 朝
- Chrysis (Chrysis) syrinx* Tsuneki, 1950
- Chrysis vicaria* Mocsáry, 1913 リュウキュウセイボウ 琉; 台
- Chrysis (Hexachrysis) fasciata vicaria* Mocsáry, 1913
- Chrysura hirsuta* (Gerstaecker, 1869) イワタセイボウ 本; 朝, 中, ヨーロッパ
- Chrysis austriaca* Fabricius, 1804; Tosawa, 1931 (= *Chrysis iwata* Tosawa, 1942.)
- Chrysis iwata* Tosawa, 1942 (Synonymy by Tsuneki, 1970.)

- Trichrysis cyanea* (Linnaeus, 1758) ミツバセイボウ 北, 本; 朝, インド, ヨーロッパ
- Trichrysis saohime* (Tsuneki, 1950) サオヒメセイボウ 本; 朝
Chrysis (Trichrysis) saohime Tsuneki, 1950
 [Chrysis triacantha = C. saohime, Kimsey & Bohart, 1990; C. triacantha ≠ C. saohime, Terayama, 2004. *Trichrysis triacantha* (Mocsáry, 1889) の同物異名とされる場合があるが, ここでは独立種とする見解を採った]
- Trichrysis sudai* (Tsuneki, 1977) スダミツバセイボウ 本
Chrysis (Trichrysis) sudai Tsuneki, 1977
- Trichrysis triacantha* (Mocsáry, 1889) リュウキュウミツバセイボウ 琉; 台, 東南アジア, インド, スリランカ, スマトラ, インドネシア
Chrysis (Trichrysis) formosana amamiensis Tsuneki, 1975 アマミセイボウ (Provisionally. See Haneda, 1989.)
Chrysis (Trichrysis) formosana formosana Mocsáry, 1912 タイワンミツバセイボウ (Synonymy by Kimsey & Bohart, 1990.)
- Praestochrysis lusca* (Fabricius, 1804) ミドリセイボウ 北, 本, 四, 九, 対, 琉, 小; 東アジア, 東南アジア, ニューギニア, インド, スリランカ, オーストラリア, ハワイ, 南ヨーロッパ
Chrysis (Pentachrysis) lusca Fabricius, 1804
- Praestochrysis shanghaiensis* (Smith, 1874) イラガセイボウ 本, 四, 九; 台, 中, 朝, 東南アジア, ヒマラヤ, インド
Chrysis (Pentachrysis) shanghaiensis Smith, 1874
- Stilbum cyanurum* (Forster, 1771) オオセイボウ (亜種を認めない見解を採用) 本, 四, 九, 対, 琉; 台, 東南アジア, ニューギニア, オーストラリア, ヨーロッパ
Stilbum cyanurum pacificum Linsenmaier, 1951 (Provisionally.)
Stilbum cyanurum splendidum (Fabricius, 1775) (Provisionally.)

謝 辞

本報を作成するにあたり, 貴重な情報をお寄せ下さり, あるいは文献入手にご協力下さった羽田義任, 伊丹英雄, 鍛冶秀雄, 長瀬博彦, 高橋秀男の諸氏に厚く御礼申し上げます。また, 貴重な標本を点検させて下さった南部敏明, 三田敏治, 新里達也, 西村正賢, 西山 明の諸氏にも心から御礼を申し上げます。

参 考 文 献

- Bohart, R. M. & L. D. French, 1986. Designation of Chrysidid lectotypes in the Mocsary collection at the Hungarian National Museum, Budapest (Hymenoptera : Chrysididae). *Pan-Pacif. Ent.*, 62 : 340-343.
- Carpenter, J. M., 1986. Cladistics of the Chrysoidea (Hymenoptera). *J. New York Ent. Soc.*, 94 : 303-330.
- Day, M. C., 1979 (1987). The affinities of *Loboscelidia* Westwood (Hymenoptera : Chrysididae : Loboscelidiinae). *Syst. Ent.*, 4 : 21-30.
- 伊丹英雄, 1998. 新潟県のセイボウ科. 越佐昆虫同好会報, 80 : 58-61.

- 岩田久仁雄, 1940. 日本内地産青蜂の生活. 関西昆虫学会会報, 10 (2) : 8-15.
- 岩田久仁雄, 1971. 本能の進化. 蜂の比較習性学的研究. 眞野書店, 503pp.
- Kimsey, L. S., 1986a. New species and genera of Amiseginae from Asia (Chrysididae, Hymenoptera). *Psyche*, 93 : 153-165.
- Kimsey, L. S., 1986b. Designation of Chrysidid lectotypes. *Pan-Pacif. Ent.*, 62 : 105-110.
- Kimsey, L. S., and R. M. Bohart, 1990. *The chrysidid wasps of the world*. 652 pp. Oxford University Press, Oxford, New York & Toronto.
- Krombein, K. V., 1983. Biosystematic studies of Ceylonese wasps. XI : A monograph of the Amiseginae and Loboscelidiinae (Hymenoptera, Chrysididae). *Smith. Cont. Zool.*, (376) : 1-79.
- Kurzenko, N. V. and A. S. Lelej, 1994. *Nipponosega yamanei* gen. et sp. nov., a new remarkable cuckoo wasp (Hymenoptera, Chrysididae, Amiseginae) from Japan. *Bull. Nat. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A*, 20 : 83-86.
- Mingo, E., 1994. Hymenoptera, Chrysididae. *Fauna Iberica*, 6. Museo Nacional de Ciencias Naturales, 255 pp.
- Morgan, D., 1984. Cuckoo-wasps, Hymenoptera, Chrysididae. *Handbooks for the Identification of British Insects* 6, part 5, 37 pp.
- 羽田義任 1989. 南西諸島のミツバセイボウについて. 福井虫報, 5 : 13-16.
- Lin, K.-S., 1964. The Taiwanese Loboscelidiidae (Hymenoptera : Bethyloidea). *Quart. J. Taiwan Mus.*, 17 : 237-245.
- 三田敏治, 2004. ナナフシヤドリバチ類2種の新産地. つねきばち, 3 : 59.
- Nagase, H., 1995. A new species of *Nipponosega* (Hymenoptera, Chrysididae, Amiseginae) from Central Japan. *Bull. Nat. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A*, 21 : 103-107.
- 南部敏明, 1998. 埼玉県の膜翅目 (ハチ・アリ類). 埼玉県昆虫誌, III, 9-92.
- 新里達也, 1986. セイボウ科. 板橋区昆虫類等実態調査. 東京都板橋区, 124-125.
- 田埜 正, 1995. 常木勝次博士が記載された青蜂類の新種・新亜種とその標本所蔵館. 福井虫報, (17) : 17-20.
- Terayama, M., 1999. Descriptions of new species and genera of Chrysididae from the Ryukyus, Japan (Insecta : Hymenoptera). *Biogeography*, 1 : 99-106.
- Terayama, M., T. Muroi & K. Yamagishi, 1998. A new record of the subfamily Loboscelidiinae (Hymenoptera, Chrysididae) from Japan. *Jpn. J. Syst. Ent.*, 4 : 31-32.
- 寺山 守, 1998. セイボウ上科. 日本動物大百科 第10巻 昆虫 III. 平凡社, 31.
- 寺山 守, 1999. セイボウ上科. 南西諸島産有剣ハチ・アリ類検索図説 (山根正気・幾留秀一・寺山 守共著). 北海道大学図書刊行会, 69-131.
- 寺山 守, 2004. 日本産有剣膜翅類目録. 日本蟻類研究会紀要, 2 : 1-123.
- 戸沢信義, 1931. 日本の青蜂. 関西昆虫学会会報, 2 : 35-50.
- 戸沢信義, 1942. 青蜂に就いて. 宝塚昆虫館報, (26) : 1-13.
- Tormos, J., J. D. Asis, S. F. Gayubo & E. Mingo, 1996. Description of the mature larvae of *Chrysis gracillima* and *Omalus biaccinctus* and new data on the biology of *Trichrysis cyanea* (Hymenoptera : Chrysididae). *Florida Ent.*, 79 : 56-63.

- 常木勝次, 1957. 青蜂群集の微分布をめぐる生態学的諸問題 附 日本産青蜂単爪亜科の検索表.
生態昆虫, 6 (14) : 11-23.
- 常木勝次, 1970a. 蜂類研究手引 (25) (11) セイボウ科 (Chrysididae), I. 生物研究 (福井), 14 : 45-50.
- 常木勝次, 1970b. 蜂類研究手引 (26) (11) セイボウ科 (Chrysididae), II. 生物研究 (福井), 14 : 66-72.
- Tsuneki, K., 1952a. Two new species of Chrysididae from Japan and Korea. Ins. Matsumurana, 18 : 31-33.
- Tsuneki, K., 1952b. Ethological studies on the Japanese species of *Pemphredon* (Hymenoptera, Sphecidae), with notes on their parasites, *Ellampus* spp. (Hym., Chrysididae). Jour. Fac. Sci., Hokkaido Univ., Ser. VI., Zool., Vol. 11 (2) : 57-76.
- Tsuneki, K., 1954. Descriptions and records of wasps of the Families Chrysididae and Sphecidae of Japan (Hymenoptera). Mem. Fac. Liberal Arts, Fukui Univ., Ser. II, Nat. Sci., 4, Part 5, 37-54.
- Tsuneki, K., 1959. Contributions to the knowledge of the Cleptinae and Pseninae of Japan and Korea (Hymenoptera, Chrysididae and Sphecidae). Mem. Fac. Lib. Atrs., Fikui Univ., II, 9 (1) : 1-78.
- Tsuneki K., 1961. Chrysididae (Hymenoptera) collected by the Osaka City University Biological Expedition to Southeast Asia 1957-58. Nature and Life in Southeast Asia, 1 : 367-382.
- Tsuneki, K., 1963. *Chrysis* (*Hexachrysis*) of Eastern Asia (Hymenoptera, Chrysididae). Etizenia, (3) : 1-9.
- Tsuneki, K., 1966. Notes on some Chrysididae and Sphecidae in the collection of the Osaka Museum of Natural History, with descriptions of three new species (Hymenoptera). Bull. Osaka Museum of Natural History, 19 : 19-28.
- Tsuneki, K., 1970a. Bemerkungen und Beschreibungen über den japanischen Heteronychinen (Hym., Chrysididae). Life Study (Fukui), 14 : 27-34.
- Tsuneki, K., 1970b. Ein Beitrag zur Goidwespen-Fauna Formosas (Hymenoptera). Etizenia, 49 : 1-21.
- Tsuneki, K., 1975. New cuckoo wasps (Hymenoptera, Chrysididae) found in Japan. Kontyû, 43 : 29-35.
- Tsuneki, K., 1977. Descriptions of new species and subspecies of Chrysididae from Japan (Hymenoptera). Akitu, N.S., 9 : 1-3.
- Tsuneki, K., 1979. Sphecidae and Chrysididae collected by Dr. K. Baba in northern part of Japan proper and Hokkaido, with descriptions of two new species. Jour. Ent. Soc. Essa, (50) : 9-14.
- Tsuneki, K., 1984. Solitary wasps newly collected in the Ogasawara or the Bonin Islands (Hymenoptera). SPJHA, 28 : 1-11.
- Tsuneki, K., 1986. New species and subspecies of the Aculeate Hymenoptera from East Asia, with some synonyms, specific remarks and distributional data. SPJHA, 32 : 1-60.
- Uchida, T., 1925. A list of known species of the Corean Hymenoptera which I collected in 1922, and their geographical distribution. Ins. World (Gifu), 29 (10) : 328-337 ; 20 (11) : 366-373.
- Uchida, T., 1927. Eine Uebersicht der Chrysididen Japans und mit fen Beschreibungen der neuen Arten und Varietäten. Ins. Matsumrana, 1(3) : 148-157.
- Uchida, T., 1933. Catalogue of Japanese Insects, II. Hymenoptera, Chrysididae, S. 1-7. Ent. World, Tokyo.
- 山根正気, 1976. リンネセイボウの老熟幼虫. New. Entomol., 25 : 73-76.
- 山根正気・幾留秀一・寺山 守, 1999. 南西諸島産有剣ハチ・アリ類検索図説. 北海道大学図書刊行会, 831 pp., 24 plates.